

# お茶の水女子大学学报

平成 8 年 11 月 1 日  
お茶の水女子大学庶務課

## 目 次

◇学内規則 .....	2
◎お茶の水女子大学永年勤続者表彰規程の 一部を改正する規程 .....	2
◎お茶の水女子大学奨学基金運営内規の一 部を改正する内規 .....	2
◇学 事 .....	3
◎平成 9 年度お茶の水女子大学 学生募集要項 .....	3
◎平成 9 年度お茶の水女子大学大学院 人文科学研究科（修士課程） 学生募集要項 .....	27
◎平成 9 年度お茶の水女子大学 私費外国人留学生（学部留学生） 特別選抜学生募集要項 .....	36
◎平成 8 年 9 月卒業式及び学位授与 について .....	44
◇人 事 .....	45

◇諸 報 .....	52
◎研 修 .....	52
◎海外渡航 .....	53
◎レクリエーション行事 .....	55
◎健康診断 .....	55
◇日 誌 .....	56

## 学内規則

### ○お茶の水女子大学規則第32号

お茶の水女子大学永年勤続者表彰規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成8年9月27日

お茶の水女子大学長 太田次郎

### お茶の水女子大学永年勤続者表彰規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学永年勤続者表彰規程（昭和60年10月23日制定）の一部を次のように改正する。

第6条に次の1項を加える。

- 2 学長の要請に応じ、他の官公庁等に引き続き勤務した職員が、当該官公庁等の職員から引き続いて再び本学職員となった場合における当該官公庁等の職員としての在職期間は、本学職員としての在職期間に通算する。

#### 附則

この規程は、平成8年9月27日から施行する。

### ○平成8年お茶の水女子大学規則第33号

お茶の水女子大学奨学基金運営内規の一部を改正する内規を次のように定める。

平成8年9月27日

お茶の水女子大学長 太田次郎

### お茶の水女子大学奨学基金運営内規の一部を改正する内規

お茶の水女子大学奨学基金運営内規（昭和41年1月8日制定）の一部を次のように改正する。

第2条の表保井・黒田奨学基金の沿革の欄中に次の1号を加える。

- 六 平成8年7月本学名誉教授能村堆子氏より本基金の趣旨に賛同し本学に寄附す。

#### 附則

この内規は、平成8年9月27日から施行する。

# 学 事

## ◎平成9年度お茶の水女子大学学生募集要項

### 1 学部・学科別募集人員

学部名	学 科 等 名	入学定員	募 集 人 員		備 考
			前期日程	後期日程	
文 教 育 学 部	人 文 学 科	63	38	15	推薦入学10名
	言 語 文 化 学 科	92	64	28	
	人 間 社 会 学 科	46	35	11	
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	31			
	「舞踊教育学コース」		18	—	(前期日程のみ募集)
	「音楽表現コース」		3	7	推薦入学 3名
	小 計	232	158	61	推薦入学13名
理 学 部	数 学 科	25	13	6	推薦入学 6名 帰国子女特別選抜 若干名
	物 理 学 科	25	14	6	推薦入学 5名
	化 学 科	25	15	5	推薦入学 5名
	生 物 学 科	27	14	6	推薦入学 7名
	情 報 学 科	40	21	9	推薦入学10名
	小 計	142	77	32	推薦入学33名
生 活 学 部	生 活 環 境 学 科	70	46	12	推薦入学12名
	人 間 生 活 学 科	76	50	12	推薦入学14名
	小 計	146	96	24	推薦入学26名
	合 計	520	331	117	推薦入学72名

注1 文教育学部芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」は、前期日程のみの募集で、後期日程の募集は行わない。

注2 理学部数学科の帰国子女特別選抜の若干名は、前期日程に含む。

#### 入学定員の減員計画について（予告）

本学の入学定員については、上記の表のとおりであるが、下記の学部・学科等において入学定員の減員計画を予定している。

文教育学部 人文科学科では63人を60人に、言語文化学科では92人を88人に、人間社会科学科では46人を44人に、芸術・表現行動学科では31人を30人にする減員計画を予定している。

理学部 数学科では25人を22人に、物理学科では25人を22人に、化学科では25人を23人に、生物学科では27人を25人にする減員計画を予定している。

この減員計画は、平成9年度予算の関係で現在は未確定であるが、詳細については、平成9年度政府予算案の決定後（平成9年1月頃）、「募集要項」（追加）をもって発表する予定である。

## 2 出願資格

下記のいずれかに該当する女子で、かつ、平成9年度大学入試センター試験で本学が指定した教科・科目を受験した者

- (1) 高等学校を卒業した者及び平成9年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成9年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第69条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成9年3月31日までにこれに該当する見込みの者

## 3 出願手続

### (1) 出願期間

前期日程、後期日程とも平成9年1月27日（月）から2月4日（火）までの間に必着するよう郵送すること。

ただし、2月3日（月）以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

### (2) 出願方法

志願者は、出願書類を一括して、本学所定の封筒を用い書留速達で下記あてに郵送すること。

文教育学部志願者 …………… 文教育学部事務部  
理学部志願者 …………… 理学部事務部  
生活科学部志願者 …………… 生活科学部事務部

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
お茶の水女子大学

### (3) 出願について

#### ① 試験日程間の併願について

試験日程グループ間の併願については、「前期－前期」、「後期－後期」、「前期－公立A」、「後期－公立B」の組合わせで併願することはできない。

#### ② 本学の併願について

本学の【前期日程】に出願する者が、本学の【後期日程】を併願してもよい。

#### ③ 本学又は他の国公立大学（「私立産業医科大学」を含む。以下同じ）の「前期日程試験」に合格し、平成9年3月14日（金）までに入学手続きを行った者は、「後期日程試験」を受験してもその合格者とはならない。

#### ④ 本学又は他の国公立大学の推薦入学の合格者は、本学の個別学力検査等（第2次試験）を受験してもその合格者とはならない。

ただし、当該大学の推薦入学の辞退を許可されたものは除く。

#### ⑤ 本学に出願する者は、各学部とも【前期日程】又は【後期日程】のいずれであっても受験を志望する学科はそれぞれ一つの学科に限る。なお、【前期日程】と【後期日程】で志望する学科が異なっても差し支えない。

#### ⑥ 本学の推薦入学及び帰国子女特別選抜の志願者で、合格とならなかった者が同じ学部に出願する場合は、出願書類等のうち、調査書及び健康診断書は提出しなくてもよい。

#### ⑦ 出願書類不備の場合は受理しない。また、一旦受理した書類は返却しない。

(4) 出願書類等

1	出願カード (志願者名票) (写真票) (受験票)	<p>本学所定のもの。 「出願カード記入上の注意」(17ページ)を参照し、記入すること。 文教育学部、理学部及び生活科学部の各学部それぞれ前期日程用・後期日程用の6種類があるので、該当するカードに記入すること。 各学部の前期日程用には「平成9年度大学入試センター試験成績請求票」の(A前用)を、各学部の後期日程用には(B後用)をそれぞれ所定欄に貼付すること。</p>
2	入学志願者マーク・カード	「入学志願者マーク・カード記入上の注意」(19ページ)を参照し、本学所定のマーク・カードに記入すること。
3	あて名票	合格通知に使用するので、本学所定の用紙に志願者の住所・氏名・郵便番号を記入すること。郵便切手は貼付しないでよい。
4	実技関係調査用紙	文教育学部芸術・表現行動学科を志願する者のみ本学所定の用紙で提出すること。
5	調査書	出身学校長が作成し、厳封したもの。ただし、出願資格(3)に該当する者は、当該試験等の成績証明書を提出すること。
6	健康診断書	平成7年3月以前の高等学校卒業生及び出願資格(3)に該当する者は「視力、聴力、結核及びその他の疾病、異常等」について医師が作成した健康診断書(様式は特に定めない)(出願前3か月以内のもの)を提出すること。平成8年3月高等学校卒業生及び平成9年3月高等学校卒業見込みの者は提出しなくてよい。
7	検定料	<p>郵便局振出しの16,000円の「普通為替証書」として受取人指定欄に「お茶の水女子大学」とのみ書くこと。 (注)(1) 第1段階選抜の不合格者に対しては、12,500円を返還する。 (2) 上記の(1)に該当する者は、平成9年3月31日までに申し出ること。 (3) 上記(1)の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は返還しない。</p>
8	検定料納付書 (原符・領収証書)	本学所定の「原符・領収証書」に必要事項を記入し、裏面に志願者の住所・氏名・郵便番号を記入し50円切手を貼付すること。 領収証書には受験番号が記載されているので、大切に保管すること。
9	受験許可書	大学に在学している者は、学長・学部長・学生部長のいずれかが本学の受験を許可した証明書を提出すること。(様式は特に定めない。)
10	受験票返送用封筒	本学所定の封筒に350円切手(速達料を含む。)を貼付し、志願者の住所氏名及び郵便番号を記入すること。
11	合格者受験番号表申込用紙 (電子郵便)	希望する者は、本学所定の用紙を用い580円分の切手を貼ること。

備 考

- ① 出願カードは文教育学部、理学部及び生活科学部の各学部それぞれ前期日程用・後期日程用の6種類があり、その他の出願書類は〔前期日程用〕と〔後期日程用〕の2種類があるので、志望する学部の提出書類を確認のうえ提出すること。
- ② 前期日程と後期日程の両方に出願する場合（併願）は、2種類の出願書類等をそれぞれ所定の封筒で提出すること。
- ③ 志願用封筒下欄の志願者欄に志望学科等を明記すること。

また、文教育学部及び生活科学部志願者のうち次に該当する者は、受験を希望する学力検査受験区分の国語又は数学のいずれかに○をつけること。

文教育学部 人文科学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科「音楽表現コース」  
生活科学部 人間生活学科

(5) 身体に障害のある者の出願

本学に入学を志望する者のうち、身体に障害がある者及び次表に該当する者で、受験上特別な措置を希望する者については、事前協議を行うので、出願に先立ち本学入学主幹室に申し出て（電話可）、「受験特別措置協議申請書」を受領のうえ、12月20日（金）までに必要書類を添えて提出すること。

なお、日常生活においては、ごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、試験場の設定等との関係から特別措置として取り扱うこととしているので、前記と同様に先立ち本学入学主幹室に申し出ること。

お茶の水女子大学入学主幹室 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
電 話 (03) 5978-5151~2

障害の種類	障 害 の 程 度
視覚障害者	1 両眼の矯正視力が0.1未満のもの 2 両眼の矯正視力が0.1以上0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、点字による教育を必要とするもの又は将来点字による教育を必要とすることとなるとみとめられるもの
聴覚障害者	1 両耳の聴力レベルが100デシベル以上のもの 2 両耳の聴力レベルが100デシベル未満60デシベル以上のものうち、補聴器の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のも
肢体不自由者	1 体幹の機能の障害が、体幹を支持することが不可能又は困難な程度のもの 2 上肢の機能の障害が、筆記をすることが不可能又は困難な程度のもの 3 下肢の機能の障害が、歩行をすることが不可能又は困難な程度のもの 4 前3号に掲げるもののほか、肢体の機能の障害がこれらと同程度以上のもの 5 肢体の機能の障害が前各号に掲げる程度に達しないものうち、6月以上の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱者	1 慢性の胸部疾患、心臓疾患、腎臓疾患等の状況が6月以上の医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2 身体虚弱の状態が6月以上の生活規制を必要とする程度のもの

#### 4 大学入試センター試験で受験を要する教科等

本学に入学を希望する者は、推薦入学及び帰国子女特別選抜への出願を除き、下表に示す平成9年度大学入試センター試験を受験していなければ、出願し、受験しても入学許可は得られないので十分注意すること。

特に、\*印科目の受験資格に留意すること。

文教育学部

学 科 名 等	選抜方法 の 区 分	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 で 入 学 志 願 者 に 解 答 さ せ る 教 科 ・ 科 目 名	受 験 を 要 す る 教 科 数
人 文 科 学 科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴(世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外	5教科
	後期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴(世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 理(物B、化B、生B、地学B) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 外	4教科
言 語 文 化 学 科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴(世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外	5教科
	後期日程	理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外	
人 間 社 会 科 学 科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴(世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外	5教科
	後期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴(世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 理(物B、化B、生B、地学B) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 外	4教科
芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科 「舞踊教育学コース」	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴(世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外	5教科
	「音楽表現コース」	後期日程	数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 外

〔注〕「舞踊教育学コース」は、前期日程のみの募集である。

理学部・生活科学部

学科名等	選抜方法の区分	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名	受験を要する教科数
理学部 数学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
物理学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
化学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、生Bから1)と(化B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
生物学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
情報科学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
生活科学部 生活環境学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 } から1 公民 } 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、生Bから1)と(化B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	5教科
	後期日程		
人間生活学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 } から1 公民 } 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	5教科
	後期日程		

\* 大学入試センター試験の「工業数理」、「簿記」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限る。  
(注) 大学入試センター試験で、指定した教科・科目の範囲内で2科目以上受験している場合は、3学部とも高得点の科目の成績を用いる。

【旧教育課程履修者に対する経過措置】

旧教育課程履修者(高等学校に平成6年4月に入学し、平成9年3月卒業見込みの者以外の者。以下同じ)に対する経過措置として、旧教育課程履修者は、本学が課す大学入試センター試験の「数Ⅰ・数A」に対し「旧数Ⅰ」を、「数Ⅱ・数B」に対し「旧数Ⅱ」を選択解答できるものとする。

また、倫理については旧教育課程「倫理」の範囲から出題する問題の選択解答を認める。



## 5 本学の入学試験

### (1) 個別学力検査期日

#### 【前期日程】

文教育学部 平成9年2月25日(火) 芸術・表現行動学科の実技検査は2月25・26日  
 理学部 平成9年2月25日(火)  
 生活科学部 平成9年2月25日(火)

#### 【後期日程】

文教育学部 平成9年3月12日(水) 芸術・表現行動学科の実技検査は3月13日  
 理学部 平成9年3月12日(水)  
 生活科学部 平成9年3月12日(水)

### (2) 個別学力検査教科・科目

文教育学部

学科名等	選抜方法の区分	個別学力検査等の教科・科目等	備考
人文科学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) } から1 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏、中から1)	数A*(数と式、数列) 数B*(ベクトル、複素数と複素数平面)
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
言語文化学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏、中から1)	
	後期日程	小論文	
人間社会科学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) } から1 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏、中から1)	
	後期日程	面接	
芸術・表現行動学科	前期日程	「舞踊教育学コース」実技検査 「音楽表現コース」 国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) } から1 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏、中から1) 実技検査	
	後期日程	「音楽表現コース」 実技検査	「舞踊教育学コース」では、後期日程の募集は行わない。

理学部・生活科学部

学科名等	選抜方法 の区分	個別学力検査等 の教科・科目等	備考
理学部 数学科	前期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 理(物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ、生B・生Ⅱから1)	数A*(数と式、数列) 数B*(ベクトル、複素 数と複素数平面) 数C*(行列と線形計算、 いろいろな曲線)
	後期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*)	
物理学科	前期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 理(物B・物Ⅱ)	
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
化学科	前期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理(化B・化Ⅱ)と(物B・物Ⅱ、生B・生Ⅱから1)	
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
生物学科	前期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理(生B・生Ⅱ)と(物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱから1)	
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
情報科学科	前期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 数(数Ⅲ・数C*) 理(物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ、生B・生Ⅱ) } から2	
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
生活科学部 生活環境学科	前期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏から1)	数A*(数と式、数列) 数B*(ベクトル、複素 数と複素数平面)
	後期日程	面接	
人間生活学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) } から1 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) } 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏から1)	
	後期日程	面接	

【旧教育課程履修者に対する経過措置】

三学部ともに、旧教育課程履修者に対する経過措置として、数学については、新・旧両教育課程に共通する範囲から出題する。

(3) 試験教科・科目別配点

文教育学部

【前期日程】

試験区分		大学入試センター試験					本学の試験					合計		
学科名	教科・科目等	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	国語	数学	外国 語	実 技		計	
	人	文 科 学 科	100	50	100	50	100	400	(200)	(200)	200	—	400	800
言	語 文 化 学 科	100	50	100	50	100	400	200	—	200	—	400	800	
人	間 社 会 学 科	100	50	100	50	100	400	(200)	(200)	200	—	400	800	
芸	術・表現行動学科	舞踊	100	50	100	50	100	400	—	—	—	200	200	600
		音楽	100	50	100	50	100	400	(200)	(200)	200	※	400	800

※ 音楽表現コースの実技については、総合判定の資料とする。

〔注〕人文科学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科は、( )から1科目選択

理 学 部

試験区分		大学入試センター試験					本学の試験						合計		
学科名	教科・科目等	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	数 学			理 科			計	
								*数学共通	*数学専門	*数学	物理	化学			生物
								数	学 科	50	—	50	50		100
物	理 学 科	50	—	50	50	100	250	100	—	100	200	—	—	400	650
化	学 科	50	—	50	50	100	250	100	—	—	(100)	200	(100)	400	650
生	物 学 科	50	—	50	50	100	250	100	—	—	(100)	(100)	200	400	650
情	報 科 学 科	50	—	50	50	100	250	100	100	(100)	(100)	(100)	(100)	400	650

〔注〕数学科、化学科、生物学科は、( )から1科目選択、情報科学科は、( )から2科目選択

\*数学共通〔数Ⅰ・数A（数と式、数列）、数Ⅱ・数B（ベクトル、複素数と複素数平面）〕

\*数学専門〔数学共通、数Ⅲ・数C（行列と線形計算、いろいろな曲線）〕

\*数 学〔数Ⅲ・数C（行列と線形計算、いろいろな曲線）〕

生活科学部

試験区分		大学入試センター試験					本学の試験				合計	
学科名	教科・科目等	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	国語	数学	外国 語		計
	生	活 環 境 学 科	100	50	100	150	100	500	—	250	250	500
人	間 生 活 学 科	150	100	100	50	100	500	(250)	(250)	250	500	1000

〔注〕生活環境学科の理科は2科目の合計点とする。

〔注〕人間生活学科は、( )から1科目選択

文教育学部

【後期日程】

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験				合計
	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国語	計	小論文	面接	実技	計	
人文科学科	100	(100)	100	(100)	100	400	—	—	—	—	400
言語文化学科	100	50	100	50	100	400	200	—	—	200	600
人間社会科学科	100	(100)	100	(100)	100	400	—	100	—	100	500
芸術・表現行動学科	100	—	100	—	200	400	—	—	※	—	400

※ 実技については、総合判定の資料とする。

〔注〕人文科学科、人間社会科学科は、( )から1科目選択

〔注〕芸術・表現行動学科の「舞踊教育学コース」は、前期のみで後期の募集は行わない。

理学部

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験		合計
	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国語	計	数学	計	
数学科	※	—	※	※	100	100	300	300	400
物理学科	50	—	200	200	100	550	—	—	550
化学科	100	—	100	200	100	500	—	—	500
生物学科	100	—	100	200	100	500	—	—	500
情報科学科	100	—	200	100	200	600	—	—	600

※ 数学科では、大学入試センター試験の受験を要する教科として国語、数学、理科及び外国語の4教科を課しているが、合否の判定には、外国語のみを用いる。

ただし、第1段階選抜を実施する場合は、大学入試センター試験の国語（50点）、数学（50点）、理科（50点）、外国語（100点）の配点とする。

生活科学部

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験
	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国語	計	面接
生活環境学科	—	—	200	200	200	600	※
人間生活学科	200	—	200	—	200	600	※

※ 面接については、総合判定の資料とする。

〔注〕大学入試センター試験の生活環境学科の理科は2科目の合計点とする。

## (4) 入学試験日時割

## 【前期日程】

学部・学科等		日 時		
		2月25日(火)		
				26日(水)
文 教 育 学 部	人 文 科 学 科	国語又は数学 10:00~11:40	外 国 語 13:10~14:50	/
	言 語 文 化 学 科	国 語 10:00~11:40		
	人 間 社 会 科 学 科	国語又は数学 10:00~11:40		
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科 「舞踊教育学コース」	実 技 10:00~	実 技 10:00~	
	「音楽表現コース」	国語又は数学 10:00~11:40	外 国 語 13:10~14:50	
理 学 部	数 学 科	数学共通 10:00~11:40	数学専門・選択(物理、化学、 生物) 13:10~16:10	/
	物 理 学 科		物理・数学 13:10~16:10	
	化 学 科		化学・選択(物理、生物) 13:10~16:10	
	生 物 学 科		生物・選択(物理、化学) 13:10~16:10	
	情 報 科 学 科		数学専門・選択(物理、化学、 生物、数学) 13:10~16:10	
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	数 学 10:00~11:40	外 国 語 13:10~14:50	/
	人 間 生 活 学 科	国語又は数学 10:00~11:40		

【後期日程】

日 時		3月12日(水)	13日(木)
学部・学科等			
文 教 育 学 部	人 文 学 科	個別学力検査は課さない。	実 技 10:00~
	言 語 文 化 学 科	小 論 文 10:00~11:30	
	人 間 社 会 学 科	面 接 10:00~	
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科		
理 学 部	数 学 科	数 学 10:00~13:00	実 技 10:00~
	物 理 学 科	個別学力検査は課さない。	
	化 学 科	個別学力検査は課さない。	
	生 物 学 科	個別学力検査は課さない。	
	情 報 学 科	個別学力検査は課さない。	
生 活 学 部	生 活 環 境 学 科	面 接 10:00~	実 技 10:00~
	人 間 生 活 学 科		

(5) 実技検査

- 芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」志望者に次の検査を行う。

1 必須課題

ア. 舞踊・スポーツに必要な身体支配能力をみるための基礎運動

イ. 面接

2 選択課題

下記のア、イのいずれかを選択すること。

ア. 舞踊（下記の①と②を行う）

① モダンダンス、バレエ、日本舞踊、民族舞踊、マイムなどの表現領域から作品を自由に選択し、1分以内に演じる。使用する音楽（カセットテープに録音のこと）を持参のこと。

② 創作：課題は当日提示する。

イ. スポーツ（下記の①～③の全種目を行う）

① バレーボール

② バスケットボール

③ テニス（硬式又は軟式）

※ 実技検査に必要な服装、靴、用具を持参のこと。

- 芸術・表現行動学科「音楽表現コース」志望者に次の検査を行う。

1 必須課題

ア. 聴音：1～4声部

イ. 新曲視唱：伴奏付き

ウ. 歌唱：イタリア古典歌曲（原語）より1曲自由選択し、暗譜で演奏すること。

なお、歌唱は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜に氏名を明記して出願書類と一緒に送ること。（返却しない）

エ. ピアノ：J. S. バッハ作曲の鍵盤音楽（3分以内）より1曲を自由選択し、暗譜で演奏すること。

2 選択課題

次のア、イ、ウのいずれか一つを選択すること。

ア. 声楽演奏

下記のいずれかを選択し、暗譜で演奏すること。

① 日本歌曲

② アリア（原語・原調）又は外国歌曲（原語）

なお、声楽演奏は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜に氏名を明記して出願書類と一緒に送ること。（返却しない）

イ. ピアノ演奏

下記のいずれかを選択し、暗譜で演奏すること。

① ベートーヴェンのピアノソナタから一つの楽章を自由選択（ただし、緩徐楽章を除く）

② ショパンのピアノ練習曲集（作品10, 作品25）から2曲を自由選択

ウ. 声又は任意の楽器による演奏

音楽様式は問わない（邦楽器、洋楽器など）。

演奏に関する質疑応答を行う。楽譜使用可。演奏は受験者本人のみに限る。

## 6 入学者の選抜方法

### (1) 入学者の選抜

入学者の選抜は、本学が課す大学入試センター試験、個別学力検査、面接、小論文、実技検査、調査書及び健康診断書を総合して合格者を判定する。

### (2) 選抜方式

本学の一般選抜の個別学力検査等は、分離・分割方式とし、【前期日程】と【後期日程】に分けて実施する。

ただし、文教育学部芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」では、【前期日程】のみで実施する。

### (3) 2段階選抜

入学志願者が募集人員を大幅に上回り、本学の個別学力検査等を適切に実施することが困難な場合は、第1段階選抜を行い、その合格者に対して本学の個別学力検査等を行う。

#### ① 第1段階の選抜方法

本学各学部の定める「大学入試センター試験で受験を要する教科等」の各教科・科目の得点（本学が定める配点9～10ページに記載）を主とし募集人員の約6倍（ただし、理学部数学科【後期日程】では、約10倍）を第1段階選抜の合格者とする。

#### ② 2段階選抜を実施しない学部・学科

文教育学部	人文科学科	【後期日程】
理 学 部	物理学科	〃
	化学科	〃
	生物学科	〃
	情報科学科	〃

#### ③ 第1段階選抜の実施の有無及び実施の結果について

第1段階選抜の実施の有無及び実施した場合の選抜の結果は、平成9年2月12日（水）の正午頃、学内本部棟前掲示板に掲示する。

実施しない場合 志願者全員に「受験票」と「受験者心得」を郵送する。

実施した場合 合格者には「受験票」と「受験者心得」を、合格とならなかった者には「選抜結果通知書」及び「検定料返還金請求書」用紙を郵送する。

なお、【前期日程】では、2月17日（月）、【後期日程】では、3月3日（月）を過ぎても到着しないときは、出願学部事務部へ問い合わせること。

### (4) 個別学力検査等の受験について

受験の際は、「お茶の水女子大学受験票」及び「大学入試センター試験受験票」を必ず持参すること。

なお、「大学入試センター試験受験票」は入学手続きの際にも必要となるので、受験後も紛失しないように保管しておくこと。



## 7 合格発表

### 【前期日程】

3月7日（金）正午 学内本部棟前掲示板に発表する。

### 【後期日程】

3月21日（金）正午 学内本部棟前掲示板に発表する。

（注）電話等による合否の問い合わせには一切応じない。

合格者には、発表当日、あて名票（出願書類3）の住所に合格通知書を郵送する。

### ※ 電子郵便による「合格者受験番号表」について

電子郵便の内容は、志願した学部ごとに合格者全員の受験番号が記載されている。従ってこれに自分の受験番号が載っていない場合は不合格である。

出願書類を郵送する際、本学所定の用紙に必要な事項記入のうえ580円切手を貼付して提出すること。（電子郵便のあて先は、必ず本人が受け取ることでできるところとし、提出後のあて先の変更はできない。）

合格発表から入学手続締切りまでの期間が短いため、合格発表当日、確認に来ることができない者は、送付を希望することが望ましい。

電子郵便は、合格発表日に到着する予定であるが、万一、未着の場合は小石川郵便局〔TEL (03)3815-7155・7156〕へ直接問い合わせること。

この「合格者受験番号表」の不着及び遅配を理由とした入学手続期間経過後の手続は一切認めない。

（注）上記の電子郵便以外の合否電報・電話等は、本学とは一切関係なく、大学は責任を持ってないので注意すること。

## 8 入学手続等

### (1) 入学手続日

学 部	日程	手 続 日	手 続 時 間	手 続 場 所
文教育学部	前期 日程	3月13日（木）	10：00～12：00、13：00～16：00	本学共通講義棟2号館
		3月14日（金）		
理学部	後期 日程	3月26日（水）		
		3月27日（木）		

（注）所定の期日までに手続きをしない者は、入学を辞退したものととして取り扱う。

### (2) 留意事項

本学に入学手続を完了した後にこれを取り消して他の国公立大学に入学手続をすることはできない。

### (3) 手続事項

提示書類	平成9年度本学の受験票及び平成9年度大学入試センター試験受験票
入 学 料	270,000円

授 業 料	<p>前期分 234,600円〔年額 469,200円〕</p> <p>(注1) 前期分の授業料を上記手続期間中に納入しないときは、4月1日から4月30日までの間に納入することになる。</p> <p>(注2) 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により当該授業料相当額を返還する。</p> <p>(注3) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができる。</p>
-------	--

## 9 追加合格の通知

- (1) 入学手続締切期日後、募集人員に欠員が生じた場合には、3月28日以降に合格者の追加を行う。
- (2) 追加合格者への通知は、電話で行うので、本学からの連絡が確実に受けられるようにしておくこと。
- (3) 入学手続等については、この要項「8 入学手続等」に準ずるが、手続期日等については追加合格の通知（電話）を行う際に連絡する。  
 なお、合格者の追加を行うか否かについての問い合わせは、テレホンサービスを利用すること。

## 10 募集要項（追加）の請求方法

減員計画による募集要項（追加）は、平成9年度政府予算案の決定後（平成9年1月頃）をもって発表する。

〔交付場所〕 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
 お茶の水女子大学 入学主幹室入学試験係

〔郵送による請求方法〕

郵送を希望する者は190円切手を貼った返信用封筒角型2号（24cm×33cm）に宛名を明記したものを同封の上、封筒の表に「募集要項（追加）請求」と朱書きして、請求すること。

## 11 問い合わせ先

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 入学主幹室入学試験係	TEL (03) 5978-5151~2
〃 文教育学部事務部	TEL (03) 5978-5162
〃 理学部事務部	TEL (03) 5978-5287
〃 生活科学部事務部	TEL (03) 5978-5722

問い合わせの場合は返信用封筒（切手貼付）を同封し、返信先を明記すること。

## 12 テレホンサービスについて

○募集要項（追加）請求方法等

平成9年1月6日（月）～1月27日（月）

○出願状況（各学部の学科別志願倍率等）

平成9年1月28日（火）～2月11日（火）

○第1段階選抜の実施の有無

平成9年2月12日（水）正午頃

○追加合格の実施の有無

平成9年3月27日（木）18時以降

電話番号	(03) 3946-5109
------	----------------

## 出願カード記入上の注意

【前期日程】・【後期日程】

それぞれの学部用の用紙（全部で6種類）に記入すること。  
黒又は青のボールペンか万年筆で太枠内だけ記入のこと。 ☆欄には記入しない。

### 志願者名票

- 1 現住所 電話は呼出でもよいので、番号と呼出先を記入すること。
- 2 合格通知先 本学と確実に連絡できる場所を記入すること。  
別添の「合格通知先あて名票」1枚も記入すること。
- 3 出身校は、国立・公立・私立のいずれかに○をつけ、都道府県欄には、出身校所在地の都道府県名を記入すること。
- 4 氏名は、「カタカナ」及び「漢字」で丁寧に記入すること。
- 5 志望学科等は18ページ志望欄記入要領に従って記入すること。
- 6 大学入試センター試験成績請求票はりつけ欄  
「平成9年度大学入試センター試験成績請求票（**A**前用）又は（**B**後用）」をきりとり、枠内に正しくはること。
- 7 3月28日以降の連絡先  
3月28日から追加合格通知を行う場合もあるので、連絡先が異なる場合は、記入すること。
- 8 選択届出科目  
太枠内に各自の受験する科目に赤で○を付けること。  
理学部の志願者は志望学科について決められた科目を選択すること。

### 写真票及び受験票

- 1 氏名は、漢字で丁寧に記入すること。
  - 2 志望欄は18ページ志望欄記入要領に従って記入すること。
  - 3 写真（カラーでも白黒でもよい）は、単身・正面向き・上半身、縦4cm・横3cm、提出前3か月以内に写したもの。メガネ使用者は、メガネ着用のこと。  
（写真票と受験票は同じ写真を貼ること。）
- 出願後の志望学科等及び選択届出科目の変更はできない。
  - 各票の記入に間違いがないか、各票の記入が同一であるか確かめること。
  - 誤って記入した場合は、誤記部分を二重線で消し、訂正すること。
  - 別添の「入学志願者マーク・カード」も記入すること。

**志 望 欄 記 入 要 領**

**文教育学部志願者**

- 志願者名票・写真票・受験票の志望学科欄には、次に示す名称で記入すること。

学 科 名	人文科学科	言語文化学科	人間社会科学科	芸術・表現行動学科
-------	-------	--------	---------	-----------

- 芸術・表現行動学科を志望する者は、コース欄にも次に示す名称で記入すること。

コース名	舞踊教育学コース	音楽表現コース
------	----------	---------

- 前期日程の人文科学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科を志望する者は、本学の入学試験学力検査科目で「国語又は数学」を選択して受験することとなるので、受験区分欄のどちらかに必ず○印をつけること。

**理学部志願者**

- 志願者名票・写真票・受験票の志望学科欄には、次に示す名称で記入すること。

学 科 名	数 学 科	物理学科	化 学 科	生物学科	情報科学科
-------	-------	------	-------	------	-------

**生活科学部志願者**

- 志願者名票・写真票・受験票の志望学科・専攻欄には、志望学科名及び入学後に履修を希望する専攻分野について次に示す名称で記入すること。

学 科	生 活 環 境 学 科		
専 攻	生活工学	食物科学	人間科学

学 科	人 間 生 活 学 科		
専 攻	発達臨床学	生活社会科学	生活文化学

- 入学後に履修を希望する専攻分野については、第2志望まで記入すること。  
(同一学科内に限る。)
- 第2志望がない者は、第2志望欄に「なし」と記入すること。
- 前期日程の人間生活学科を志望する者は、本学の入学試験学力検査科目で「国語又は数学」を選択して受験することとなるので、受験区分欄のどちらかに必ず○印をつけること。

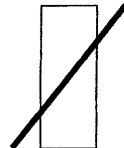
### 入学志願者マークカード記入上の注意

- 1 マーク・カード（三学部共通）は、前期用（クリーム色）と後期用（水色）の2種類あるので、志望するカードのみ記入すること。  
 なお、前期、後期どちらにも出願する者（併願）は、2種類とも記入すること。
- 2 マークカードの記入にはB又はHBの鉛筆を使用し、大学入試センター試験受験番号、試験場コード、発行回数、出身高校コード、志望学部・学科等コードを枠からはみ出さないようにぬりつぶすこと。
- 3 コード記入欄、氏名欄（太線の内側）には、該当コード及び氏名等を楷書で記入すること。
- 4 記入に際しては大学入試センター試験受験票をよく確認すること。  
 なお、発行回数は、大学入試センター試験受験票の発行回数欄の数をマークすること。
- 5 学部欄の文は文教育学部、理は理学部、生は生活科学部なので、志望する学部を1か所ぬりつぶすこと。
- 6 志望学科コードは下記の志望学科等コード表を参照の上、記入すること。
- 7 生活科学部志望者は学科名及び入学後履修を希望する専攻分野を記入すること。  
 （生活科学部志望者は同一学科内に限り入学後履修を希望する専攻分野を第2志望まで記入すること。）
- 8 文教育学部の「言語文化学科以外」及び生活科学部人間生活学科を志望する者は、必ず受験区分の国語・数学のどちらかに○をつけること。
- 9 このマークカードは電子計算機で処理するので、折ったり、汚したりしないこと。

正しいマーク例



悪いマーク例



志望学科等コード表

文 教 育 学 部		理 学 部		生 活 科 学 部	
学 科	コード	学 科	コード	学 科 等	コード
人 文 科 学 科	1	数 学 科	1	生 活 環 境 学 科	
言 語 文 化 学 科	2	物 理 学 科	2	生 活 工 学	1
人 間 社 会 学 科	3	化 学 科	3	食 物 科 学	2
芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科		生 物 学 科	4	人 間 生 活 学 科	
「舞踊教育学コース」	4	情 報 科 学 科	5	発 達 臨 床 学	4
「音楽表現コース」	5			生 活 社 会 科 学	5
				生 活 文 化 学	6
				第 2 志 望 な し	0

記入例

* 受験番号	大学入試センター試験				出身高校コード	学	第1志望	第2志望	お茶の水女子大学 入学志願者マーク・カード 【前期用】	
	受験番号	試験場コード								
	6754	U	13501	B	13004E				ふりがな	お茶の水 花子
0	0	0	0	A	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	C	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	D	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	E	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	F	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	G	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	H	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	I	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	J	9	9	9	9	9	9
* 印欄は記入しないこと										

* 受験番号	大学入試センター試験				出身高校コード	学	第1志望	第2志望	お茶の水女子大学 入学志願者マーク・カード 【後期用】	
	受験番号	試験場コード								
	6754	U	13501	B	13004E				ふりがな	お茶の水 花子
0	0	0	0	A	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	B	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	C	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	D	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	E	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	F	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	G	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	H	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	I	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	J	9	9	9	9	9	9
* 印欄は記入しないこと										

## II. 大学案内

### 1 大学の概要

本学は広く知識を修得するとともに深く専門の学術をきわめ、知的・道徳的及び応用的能力を展開することを目的とし、新時代における文化の発展をはかる指導的女性を養成することを使命とする。

本学は、明治8年本郷湯島（現文京区湯島3丁目）、現在の御茶ノ水駅近くに東京女子師範学校として開校された。しかし大正12年の関東大震災により全校舎が焼失したため、昭和7年から11年にかけて現在地に移転した。昭和24年国立学校設置法が公布され、東京女子高等師範学校からお茶の水女子大学となり、文学部と理家政学部の2学部が設置された。昭和25年文学部、理家政学部の2学部が文教育学部、理学部、家政学部の3学部となった。また、昭和43年家政学部に家庭経営学科が設置され、昭和52年に文学部が国文学科と外国文学科に改組、昭和57年に教育学科が教育学科と舞踊教育学科に改組、平成2年理学部に情報科学科が設置、平成4年10月に家政学部に生活科学部に改組、平成8年4月に文教育学部が7学科から4学科に改組された。

学部課程に続き更に専門分野の学識を深化し、研究能力を得させるために、大学院修士課程（2年制）の人文科学、理学及び家政学の3研究科が設けられている。これらの各研究科の中は各学部、学科に相当する各専攻に分かれる。学部・学科を構成する教官組織は修士講座制が採用されており、専門別の研究、教育が緻密に進められている。修士課程には、本学学部出身者以外に他大学からの進学者も多数いるのが現状である。

学部及び修士課程の各専門分野を基礎としてその上に本学を特徴づける独自の大学院として博士課程「人間文化研究科（比較文化学専攻・人間発達学専攻・人間環境学専攻）」（3年制）が設置されている。これは専門の枠を超えた高度の学際的研究を行う創造的能力をもった研究者を養成する機関であり、全学的な総合組織として活動している。

学内共同教育研究施設等としては、ジェンダー研究センター、生活環境研究センター及び情報処理センターがある。

各学科学年別に補導委員がおり、学生の学習その他学生生活全般に対する相談に応じている。

#### 〔文教育学部〕

本学部は、人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科の4学科から成り、4学科単位で入学し、1年半後に各学科内の履修コースに分かれる。1つの学科には複数の専門コースと1つの総合文化学コースとがおかれている。

本学部の特色は、文学部系と教育学部系統が一緒になって、普通の学問の区分を越えて協力する体制をとっている点にある。また、本学部の学科は、実験やフィールドワーク、実技に重点をおくもの、文献研究を主とするものなどさまざまであるが、いずれも、問題を発見し資料を収集し、説得性のある議論を展開する能力の育成を重視している。そのため教官数は学生定員にくらべて多く、演習形式、実技の授業はもとより、講義形式の授業も多くは少人数であり、さまざまな形式での手厚い個別指導が日常的に可能となっている。教官の構成も幅広く、多様な学生の要求に応えられるようになっているので、豊かな教養と深い専門性を身につけるべく、意欲的な学生が入学してくることを期待している。

なお、さらに研究を志す者には、大学院人文科学研究科（修士課程）に進学する道も開かれている。

#### 〔理学部〕

国公私立の女子大学のなかで、理学部をもつ大学は少なく、貴重な存在である。数学科・物理学科・化学科・生物学科に加えて、平成2年度から情報科学科が設置され、現在5学科からなっ

ている。数学と情報科学を含む自然科学の基礎を教育、研究し、人類の将来の展望をひらくという社会のニーズにこたえる人材を供給しつづけている。

本学部附置の臨海実験所（館山）、ラジオアイソトープ実験室、極低温実験室、組換えDNA実験室のほか、全学附置の情報処理センターも利用し、豊かな教官スタッフによる少人数教育の実績を内外にはこっている。

理学部の各学科の専門分野を更に深く専攻できるように、大学院理学研究科（修士課程）が設けられ、中堅研究者を育てている。大学院へ進学する学部卒業生の割合は3学部のなかでは現在もっとも高く、かつ増えつづけている。

#### 【生活科学部】

わが国の人々の生活のより一層の向上と物心両面の充実に資することを目的とし、人間生活の科学を大きく自然科学的分野と社会・人文科学的分野とに分け、前者を生活環境学科、後者を人間生活学科として構成している。生活環境学科は、高度に科学化された現代の生活資材の生産とその生活への利用や、生態系の一員としての人間の健康と生存に関して自然科学的に対応しうる能力を有した人材を社会に供給する。そのため、生活工学講座、食物科学講座、人間科学講座を設定している。

人間生活学科は長寿社会となったわが国の人々の時間的、空間的に拡大した人生をより幸福に生きるための個人的社会的条件を探究する専門家や、実践家を社会に提供する。そのため、発達臨床学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座を設定している。

各学部・学科の紹介等は、お茶の水女子大学大学案内及び各学部案内に記載されているので、希望者は下記あてに請求すること。

請求先：〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 入学主幹室

請求方法：390円切手を貼った返信用封筒角型2号（24cm×33cm）を同封のこと

## 2 学 費

入 学 料	270,000円
授 業 料	前期分 234,600円
	(年額 469,200円)

(注) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することが出来る。

## 3 奨 学 金

学業成績・人物ともに優秀、身体強健でかつ経済的事情のため学費の支弁が困難な学生には選考の上、日本育英会から奨学金が貸与される。

現在、貸与額は第1種奨学生、第2種奨学生ともに自宅通学生が38,000円、自宅外通学生が44,000円となっている。この他に各都道府県、民間団体等で奨学金制度を設けているところがある。これらを希望する者は、出身地の教育委員会や本学学生課に照会すること。

## 4 入学料免除と授業料免除

### ○ 入学料免除について

#### (1) 入学料免除の対象者

ア 入学前1年以内において、本人の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災難を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる者



イ 上記アに準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある者

(2) 入学料の免除が必要と認められた者については、納付すべき入学料の全額又は半額を免除する。

○ 授業料免除について

(1) 授業料免除の対象者

ア 経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる者

イ 入学前1年以内において、本人の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災難を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる者

ウ 上記イに準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある者

(2) 授業料の免除が必要と認められた者については、納付すべき授業料の全額又は半額を免除する。

(3) 免除は年度を2期に分け半期分ごとに選考のうえ、授業料の全額又は半額が免除、若しくは不許可が決定される。ただし授業料納付済の者は免除の対象とならない。

○ 入学料免除及び授業料免除の申請について

本学へ入学を志願し、入学料免除、授業料免除のいずれか又は両方を希望する者は、以下により申請手続を行ってください。

(1) 申請書類の請求

別添「請求書」に所要事項を記入し、返信用封筒（角形2号・返信用切手は請求種別により異なる。）を同封のうえ、お茶の水女子大学 学生部学生課に請求すること。

(2) 申請書類の請求期間

申請書類は、平成9年2月3日（月）から平成9年2月28日（金）までに請求すること。

(3) 申請書類の提出期間

提出期限 合格者は入学手続き期間中に提出すること。

(4) 免除に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学 学生部学生課 入学料・授業料免除担当

TEL (03) 5978-5148

## 5 学生教育研究災害傷害保険

大学の教育研究活動中における不慮の災害事故により学生のうけた傷害に対する救済措置として、財団法人内外学生センターが保険契約者となり東京海上火災保険株式会社を幹事会社とする国内損害保険会社との間に一括契約するものである。

保険期間	保険料適用区分	
	文教育学部	理学部・生活科学部
4年間	2,300円	3,000円

保険料は入学手続き期間中に徴収しており、本学学生のほぼ全員が加入している。

## 6 課外活動

大学の4か年在学中、勉学の余暇を利用して正課以外の学術・社会・芸術・スポーツ・レクリエーションなどに関する活動に参加する経験は、豊かな人間性を育てるために重要な意味を持っている。

本学には、現在文化系27サークル、体育系24サークルがあり、顧問教官の指導と助言のもとに自主的に活発な活動が行われている。

## 7 保健管理センター

本センターは、学部・大学院生（約3,000名）と本学教職員（約400名）の健康管理及びカウンセリングサービスに当たり、職員2名（常勤内科医1名を含む。）と校医2名（婦人科医・精神科医）が配置されている。

主要な事業は、(1)定期及び臨時健康診断、(2)救急及び第一次医療サービス、(3)学生相談（一般・就職・進学・精神衛生）で、診療件数は月平均1,000件にのぼる。

## 8 学外施設

志賀高原体育運動場

所在地 長野県下高井郡山ノ内町平隠7149

館山野外教育施設

所在地 千葉県館山市香長通11

## 9 下宿・貸間の紹介

大学周辺の貸間代は、一畳当たり約6千円から1万円見当であるが、アパート形式が多く下宿（食事付き）はほとんどありません。

大学周辺の貸間等の紹介については、3月末に学生課で資料を掲示しますが、物件数等は必ずしも十分とはいえませんので、親戚知人等の安心できる住居を確保するよう心掛けてください。

## 10 学生宿舎

本学には、次の学生宿舎がありますが、新生が入居できるのは国際学生宿舎のみです。入居希望者は下記により手続きを行ってください。

名 称	所 在 地	収容人員	構 造	給 食	1か月寮費	対象学生
国際学生宿舎	板橋区仲町	331人	鉄筋コンクリート 5階（個室）	なし	寄宿料 3,300円 その他光熱水料 等 約 6,000円	新 入 生 在 学 生 外国人留学生
小 石 川 寮	文京区大塚	80人	鉄筋コンクリート 4階（個室）	なし	寄宿料 3,000円 その他光熱水料 等 約 8,000円	3～4年生 大学院生

### (1) 申請書類の請求

別添「請求書」に所要事項を記入し、返信用封筒（角形2号・返信用切手は請求種別により異なる。）を同封のうえ、お茶の水女子大学 学生部学生課に請求すること。

### (2) 申請書類の請求期間

申請書類は、平成9年2月3日（月）から平成9年2月28日（金）までに請求すること。

### (3) 申請書類の提出期限

提出期限 合格者は入学手続き期間中に提出すること。

### (4) 学生宿舎に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学 学生部学生課 学生宿舎担当

TEL (03) 5978-5148

◎平成9年度お茶の水女子大学大学院人文科学研究科（修士課程）  
日本言語文化専攻 社会人学生募集要項

平成9年度お茶の水女子大学大学院人文科学研究科（修士課程）日本言語文化専攻の社会人学生を下記により募集する。

1. 専攻の趣旨及びその内容

日本言語文化専攻は、言語と文化の有機的な結合と人文科学諸分野の学際性とを重視し、国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度かつ多様な要望に応えうる日本語学・日本語教育学の研究者ならびに実践的日本語教員の養成と、日本語教育関係の在職社会人の再教育のコースである。

本専攻は、日本言語文化学、日本語教育学及び比較言語教育学の3講座を柱とし、日本文化史学、言語学、認知心理学の3講座がこれに協力する。

2. 募集人員及び対象 5名

上記専攻の趣旨により、次の学生を募集する。

大学卒業後2年以上（出願年度の3月末日までの期間を通算して2年間以上となる場合を含む。）の日本語教育の経験を有し、現在、日本語教育に携わる在職社会人で、日本言語文化学・日本語教育学についてさらに高度の専門的能力を養おうとする者

注）ただし、個人教授及び研究会員等の経験歴は、ここでは含まれない。

3. 出願資格 下記該当の女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) その他本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

4. 出願手続

- (1) 入学願書 用紙は本学で交付
- (2) 卒業証明書
- (3) 推薦書 指導教官又は主任教官、所属長等により作成されたもの（形式随意）
- (4) 調査書 用紙は本学で交付
- (5) 研究報告・計画書 大学における卒業論文・卒業研究の内容及び将来の研究計画を3,000字以内にまとめたもの（用紙は本学で交付）
- (6) 職務内容報告書 日本語教育機関における職務の内容を1,000字以内にまとめたもの（用紙は本学で交付）
- (7) 健康診断書 用紙は本学で交付

- (8) 写 真 正面上半身（5 cm×4 cm）で、出願3か月以内に撮影したもの3枚願書の指定欄に貼付
- (9) 返信用封筒 郵送の場合に限り、定形（長型3号）封筒にあて先を表記し、350円切手を貼付
- (10) 受験承諾書 在職中の者は所属長の「受験承諾書」、非常勤の場合は「在職証明書」
- (11) 検定料 28,000円
- (12) 検定料納付書 用紙は本学で交付

上記書類等を一括し、所定の期日までに本学に提出のこと。ただし、郵送するときは書留速達郵便とし、検定料は郵便為替で、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記し、封筒に「大学院人文科学研究科入学願書」と朱書すること。

#### 5. 出願期間・願書受付場所

- (1) 出願期間 { 平成8年9月24日（火）～平成8年9月30日（月）  
午前9時～12時 午後1時～3時  
なお、郵送の場合は、9月30日（月）以前の消印のあるものに限り、期間後に到着した場合でも受理する。
- (2) 受付場所 本学文教育学部事務部  
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
（地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車）

#### 6. 選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験の結果及び調査書、研究報告・計画書、職務内容報告書、健康診断書等を総合して行う。

- (1) 選考期日 平成8年10月7日（月）～10月9日（水）
- (2) 筆記試験・口述試験時間割

10月7日（月） 筆 記 試 験		10月8日（火）・9日（水）
外 国 語 10:00～11:30	専 門 科 目 13:00～15:00	口 述 試 験 10:00～
英・独・仏・中国語の中から1か国語を選択する。 (注1)	日本語文化学 日本語教育学	主に研究報告・計画書、職務内容報告書にもとづいて行う。

(注1) 外国語の選択科目については、出願の際届け出るものとする。

- (3) 試験場所 お茶の水女子大学（東京都文京区大塚2丁目1番1号）

### 7. 入学料及び授業料

入学料 270,000円      授業料 (年額) 469,200円      [前期分 234,600円]  
後期分 234,600円]

### 8. 合格者発表

平成8年10月17日(木) 12時頃、文教育学部1号館内掲示板に掲示する。

合格通知書は、文教育学部事務部で受験票を確認のうえ交付する。なお、都合により当日、来学できない合格者には、10月18日(金)に合格通知書を郵送する。

入学手続関係書類は、平成9年2月下旬に送付する。

※ 合格者が募集人員に満たない場合には第2次募集を行うことがある。

### 9. 注意事項

- (1) 出願書類等の郵送を希望する者は、270円切手を貼った返信用封筒角型2号に宛先を表記したものを同封し、封筒の表に「人文科学研究科出願書類請求」と朱書きして本学「文教育学部事務部」へ請求すること。
- (2) 出願手続後は、書類の変更及び検定料の払い戻しは行わない。
- (3) 合格、不合格に関する問い合わせには一切応じない。
- (4) 「外国人留学生」に関しては、出願書類等が異なるため、本学「学生部学務課留学生係」が取り扱うので、同係に問い合わせること。

お茶の水女子大学 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
電話：東京 (03) 5978-5162・3 (文教育学部事務部)  
電話：東京 (03) 5978-5143 (学務課留学生係)

## お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程概要

### 1. 目的及び使命

本学大学院は本学の目的、使命に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

### 2. 修業年限 2年

### 3. 専攻及び入学定員 人文科学研究科に次の専攻を置き、入学定員は次のとおりとする。

専攻名	入学定員	収容定員	専攻名	入学定員	収容定員
哲学専攻	8	16	英文学専攻	7	14
史学専攻	7	14	教育学専攻	11	22
地理学専攻	6	12	舞踊教育学専攻	10	20
日本文学専攻	6	12	日本語文化専攻	12	24
中国文学専攻	3	6	計	70	140

### 4. 授業科目履修方法及び課程の修了

(1) 学生は2年以上在学し、それぞれの専攻の授業科目について30単位以上履修しなければならない。

ただし、研究指導を担当する教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合に限り、他の専攻、他研究科又は学部の授業科目を指定して履修させ、これを当該専攻の単位とすることができる。

(2) 課程の修了には、2年以上在学し、所要の単位を修得し、かつ学位論文を提出して最終試験に合格しなければならない。

### 5. 学位授与

本研究科において、課程を修了した者に対しては、修士（人文科学）の学位を授与する。

6. 主要授業科目・担当教官

専攻	授業科目	担当教官
哲学専攻	哲学特論・演習 倫理学特論・演習 美学特論・演習 社会学特論・演習	教授 土羽三高 教授 屋入浦島藤山野本 教授 賢佐和子 教授 元光光知正佳鶴 教授 二子謙洋子文香子恵 助教 助教 助教 助教
史学専攻	日本史学特論・演習 東洋史学特論・演習 西洋史学特論・演習	教授 大安小西窪三山遅新 教授 口田風澤添浦本塚井 教授 勇次郎雅子文徹行躬夫 教授 秀奈慶秀忠由紀 助教 助教 助教 助教
地理学専攻	人文地理学特論・演習 自然地理学特論・演習 地誌学特論・演習	教授 千栗内田杉内熊 教授 歳原田宮谷藤谷 教授 壽尚忠兵博圭 教授 一子賢衛隆夫知 助教 助教 助教 助教
日本文学専攻	上代文学特論・演習 中世文学特論・演習 近世文学特論・演習 現代文学特論・演習 国語学特論・演習	教授 岩平三市 教授 崎野木古(未塚木田 教授 千由紀夏定)常 教授 鶴子人生 樹泰啓 助教 助教 助教 助教
中国文学専攻	中国文学特論・演習 中国語学特論・演習	教授 佐宮藤相 教授 藤尾山原 教授 正和 教授 保樹子茂 助教 助教 助教
英文学専攻	英文学特論・演習 米文学特論・演習 英語学特論・演習	教授 内松海老根村川尾江 教授 田崎根村川尾江 教授 正静和幸道ゆき 助教 助教 助教 助教

専攻	授業科目		担当教官	
教育学専攻	教育 学	教育学特論・演習 教育史特論・演習 教育社会学特論・演習 教育行政学特論・演習 教育方法学特論・演習 教育経営学特論・演習 社会教育学特論・演習 博物館学特論・演習 文化人類学特論・演習	教授 助教 教授 教授 教授 教授 教授 教授	上野浩道 駒込塚寛明 耳塚(未原)修 宮(未原)定 小川剛 鷹野光 田中真砂子
	心理 学	教育心理学特論 I・II 社会心理学特論 I・II 臨床心理学特論 I・II 発達心理学特論 I・II 認知心理学特論 I・II	教授 助教 教授 教授 教授	内藤俊史 坂元章 春日喬 内田伸子 石口彰
舞踊教育学専攻	舞 踊	舞踊教育学特論・演習 民族舞踊特論・演習 遊戯学特論・演習 遊戯方法論・演習 舞踊美学特論・演習 動作学特論・演習	教授 助教 教授 教授 教授 教授	片岡康子 本田郁夫 加賀秀進 杉山節子 石黒はるみ 森下
	音 楽	音楽学特論・演習 演奏学特論・演習	教授 助教 教授 教授	徳丸吉彦 永原惠秀 遠藤一 林廣一郎 子
日本語文化専攻	日本語文化学特論・演習 日本語教育方法論・演習 日本語指導法演習 日本語音声教育方法論 比較言語教育学特論 日本文化史学特論・演習 対照言語学特論・演習 言語心理学特論 外国文化論		教授 助教 教授 教授 助教 教授 教授 教授	三木紀人 西澤奈津子 岡崎友和彦 長(未郷)逕次郎 本郷口勇道 大西尾村俊伸 中西内田(未定) 子直子
関連科目	独文学特論・演習 仏文学特論・演習		教授 助教 教授 教授	石丸昭二 菅野健 石川宏 村弓子



# 日 本 言 語 文 化 専 攻 概 要

## 1. 日本言語文化専攻設置の趣旨

日本言語文化専攻は、最近の国際社会における日本への関心の高まりとともに、ますます多様化し高度化しつつある日本語および日本文化の学習に対するつよい要望に応えるべく、国際的、学際的研究理念に立って、学部において種々の専門を修得した幅広い学生を受け入れ、広汎な分野で活躍しうる研究者・実務者を養成することを目的とする独立専攻である。

昭和61年度以降、我が国の国公・私立大学において、学部レベルの日本語教育関係の学科・専攻の整備・拡充が急速に進められてきたが、学部レベルの教育だけでは昨今の多様化し高度化しつつある日本語学習者の要望に十分応えることはむずかしく、かつまた、資格の点でも大学その他の日本語教育機関にポストを得ることは容易でない。そのために、より高度の専門的かつ指導的な日本語教員を養成する大学院修士課程以上の日本語教育関係の専攻の整備が社会的に求められている。

このような国際的、社会的要請に応えるために、本専攻は、日本語とその背景にある日本文化の伝統との密接な関連を重視した学際的な日本語文化の考究を通じて、より高度の専門指導者・研究者、並びに実践的日本語教員を養成するとともに、在職日本語教員の再教育を行うことを目的として設置する。

なお、現職日本語教員等社会人の受け入れにあたっては、授業の一部を夜間その他特定の時間又は時期に開講して、修学の利便をはかる。

## 2. 授業科目

### 日本語文化学講座

日本語学特論	選択必修
日本語学演習	選択必修
日本語文化学特論Ⅰ	選択必修
日本語文化学特論Ⅱ	選択必修
日本語文化学演習Ⅰ	選択必修
日本語文化学演習Ⅱ	選択必修
比較文化学特論	選 択
外国文化論	選 択

### 日本語教育学講座

日本語教育学特論	選択必修
日本語教育方法論	選択必修
日本語指導法演習Ⅰ	選択必修
日本語指導法演習Ⅱ	選択必修
日本語音声表現特論	選択必修
日本語音声表現演習	選択必修
日本語文章表現演習	選択必修
言語哲学特論	選 択
言語分析学演習	選 択

#### 比較言語教育学講座

日本語音声教育方法論	選択必修
比較言語教育学特論	選択必修
比較言語教育学演習	選択必修

#### 日本文化史学講座

日本文化史学特論	選	択
----------	---	---

#### 言語学講座

対照言語学特論	選	択
対照言語学演習	選	択

#### 認知心理学講座

言語心理学特論	選	択
---------	---	---

特 別 研 究 必 修

※単位数は、特別研究が6単位であるほかは、他の科目はすべて4単位である。

### 3. 履修方法

本専攻は独立専攻であり、学生は学部において履修した専門が種々多様であるため、入学後に学生個別の状況をふまえて個々の履修科目の指導を行う。

## 日本語文化専攻社会人学生について

### 1. 日本語教育の経歴等について

本専攻が対象とする在職社会人は、公的、私的とを問わず、各種の日本語教育機関で常勤又は非常勤で日本語教育に従事している者をいう。

「2年以上の日本語教育の経験」とは、上記の各種日本語教育機関で常勤又は非常勤の従事者としての2年以上であり、非常勤の特殊な勤務形態（たとえば、短期集中授業の講師等）として、通算して2年以上に達する場合も認められる。

在職社会人受験者は、職務内容報告書を提出すると同時に、「入学願書」の「経歴事項」職歴欄を特に詳しく記入すること。記入欄に書ききれない場合には別紙に記入してもよい。

### 2. 履修形態

社会人学生の履修形態は、第1年次は、職場を離れ通常開講される授業及び研究指導を受け、第2年次については、職場に復帰し、定期的又は集中的に通学し、平日の夜間等に開講する授業及び研究指導を受けることができる。

夜間の開講については、火曜日と木曜日に、それぞれ17:20～18:50 19:10～20:40の2時限を開講している。

**大学所在地案内** 東京都文京区大塚2丁目1番1号

最寄り駅等 { 地下鉄 丸ノ内線 茗荷谷駅から徒歩 約5分  
 地下鉄 有楽町線 護国寺駅(5番口)から徒歩 約5分  
 都営バス 大塚2丁目停留所前

◎池袋駅から

地下鉄利用の場合

丸ノ内線・池袋駅 [新宿、荻窪方面行] ———— 約5分 ———— 茗荷谷駅下車  
 有楽町線・池袋駅 [新木場方面行] ———— 約4分 ———— 護国寺駅下車

都営バス利用の場合

池袋駅東口 [文京区役所前行] ———— 約20分 ———— 大塚2丁目  
 (都02乙番) [一橋行] 停留所下車

◎大塚駅から

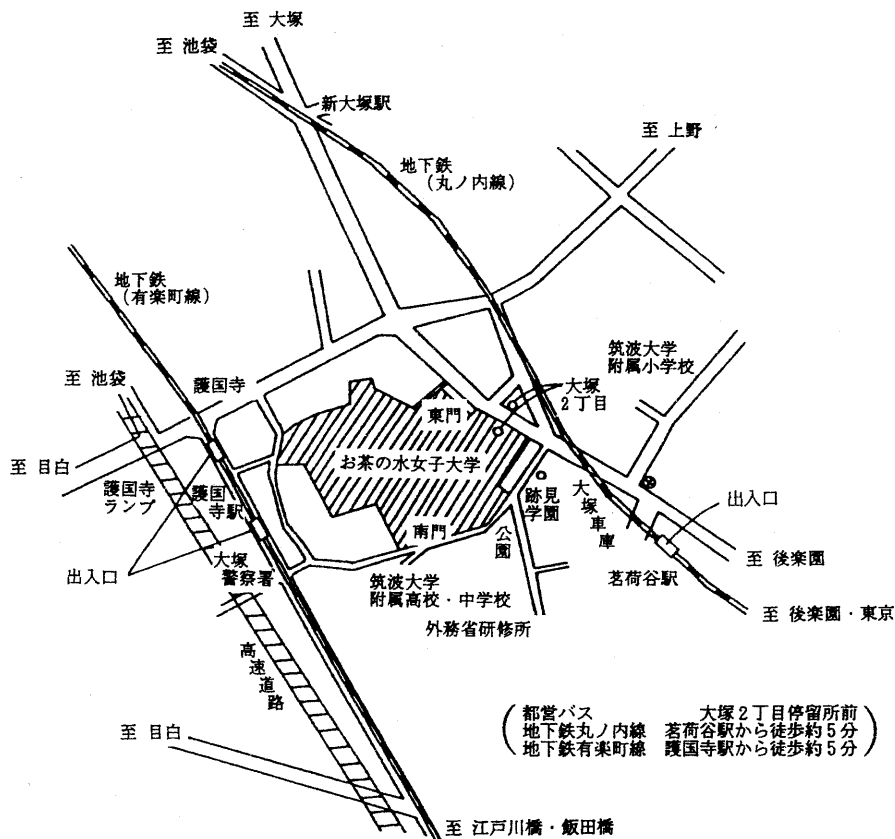
都営バス利用の場合

大塚駅南口 [錦糸町駅前行] ———— 約10分 ———— 大塚2丁目  
 (都02番) [本所一丁目行] 停留所下車

◎東京駅又は御茶ノ水駅から

地下鉄利用の場合

丸ノ内線・東京駅 [池袋駅行] — 約5分 — 御茶ノ水駅 — 約6分 — 茗荷谷駅下車



**◎平成 9 年度お茶の水女子大学私費外国人留学生（学部留学生）  
特別選抜学生募集要項**

**1 募集学部・学科・人員**

学 部	学 科
文 教 育 学 部	人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科
理 学 部	数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科
生 活 科 学 部	生活環境学科、人間生活学科

募集人員は、各学科とも若干名

**2 出願資格**

次の(1)、(2)のすべてに該当する外国人女子

- (1) 平成 8 年度日本語能力試験（1 級）及び平成 9 年度私費外国人留学生統一試験を受験した者
- (2) 外国において、学校教育における 1 2 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定した者

なお、日本において高等学校を卒業又は同等以上の資格を得た者は、日本人学生と同様に取り扱う。

**3 出願手続**

**(1) 出願方法**

入学志願者（代理人でも差し支えない。）は、出願期間内に下記(3)の出願書類等を持参のうえ提出すること。

**(2) 出 願 先**

東京都文京区大塚 2 丁目 1 番 1 号  
お茶の水女子大学 学務課留学生係  
{
地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅下車 徒歩 5 分  
}
地下鉄有楽町線 護国寺駅下車 徒歩 5 分

**(3) 出願書類等**

- ア. 出願カード（志願者名票・写真票・受験票）……… 本学所定の用紙を用い、「出願カード記入上の注意」（7 ページ）を参照し、記入すること。写真を貼付のこと。
- イ. 最終出身校の成績証明書、卒業証明書及び関係教官の推薦書
- ウ. 日本語による自筆の作文（1,000 字以内で、留学の目的、専攻分野の内容、将来の計画等について。）
- エ. 平成 8 年度日本語能力試験（1 級）及び平成 9 年度私費外国人留学生統一試験の受験票の写し
- オ. 健康診断書（本学所定の用紙を用い、出願 3 か月以内に作成したもの）
- カ. 出願時に日本国内に在住している者………外国人登録済証明書（在留資格・在留期間明記のもの）  
出願時に日本国外に在住している者………戸籍謄本又は出生証明書等
- キ. あて名票（合格通知その他に使用するので、本学所定の用紙に志願者名票の「日本国内の連絡先」の住所、氏名及び郵便番号を明記すること。郵便切手は貼付しないでよい。）
- ク. 検定料 16,000 円
- ケ. 検定料納付書 ……………本学所定の「原符・領収証書」に必要事項を記入すること。
- コ. 受験票返送用封筒（本学所定の封筒に 350 円切手を貼付し、志願者名票の「日本国内の連絡先」の住所、氏名及び郵便番号を明記すること。）

4 出願期間

平成8年(1996年)12月9日(月)～12月16日(月)(ただし、土、日曜日を除く。)  
 [受付時間] 10時～11時30分、13時～15時

5 私費外国人留学生統一試験で受験を要する科目等

学 部	学 科	受 験 を 要 す る 科 目	受 験 を 要 す る 科 目 数
文教育学部	言語文化学科	文科系	全科目
	人文科学科 人間社会科学科 芸術・表現行動学科	文科系又は理科系のいずれかを選択	全科目
理学部	全 学 科	理科系	全科目
生活科学部	生活環境学科	理科系	全科目
	人間生活学科	文科系又は理科系のいずれかを選択	全科目

6 受験票の送付

- (1) 「お茶の水女子大学受験票」は、「受験者心得」とともに、平成9年(1997年)2月12日(水)頃発送する。なお、2月17日(月)を過ぎても到着しないときは、学務課留学生係へ問い合わせること。
- (2) 受験の際は、「お茶の水女子大学受験票」を必ず持参すること。

7 入学者の選抜方法

- (1) 志願者全員に本学の入学試験を課し、その結果と日本語能力試験(1級)の成績、私費外国人留学生統一試験、最終出身校の成績証明書、健康診断書等により総合して合格者を判定する。

8 本学の入学試験

- (1) 期 日 平成9年(1997年)2月25日(火)、26日(水)
- (2) 試験場 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2丁目1番1号)
- (3) 学力検査

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目
文 教 育 学 部	人文科学科	日本語 外国語(英語I・II・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	言語文化学科	日本語 外国語(英語I・II・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	人間社会科学科	日本語 外国語(英語I・II・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	芸術・表現行動 学科	日本語 外国語(英語I・II・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択) ※ 上記学力検査のほかに、実技検査を行う。

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目
理 学 部	数 学 科	数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	物 理 学 科	数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 理 科 (物理) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	化 学 科	数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理 科 (「化学」と「物理、生物から1科目選択」) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	生 物 学 科	数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理 科 (「生物」と「物理、化学から1科目選択」) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	情 報 学 科	数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 数学・理科 (数学、物理、化学、生物から2科目選択) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	人 間 生 活 学 科	日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)

数A\* (数と式、数列)

数B\* (ベクトル、複素数と複素数平面)

数C\* (行列と線形計算、いろいろな曲線)

(注) 学力検査科目欄の外国語(英語、ドイツ語、フランス語)は、母国語を選択することはできない。

#### (4) 実技検査

- 芸術・表現行動学科（舞踊教育学コース）志望者に次の検査を行う。

##### 1, 共通課題

ア. 舞踊・スポーツに必要な身体支配能力をみるための基礎運動

イ. 面接

##### 2, 選択課題（下記のア、イのいずれかを選択すること。）

ア. 舞踊（下記①～②をすべて行う）

① モダンダンス、バレエ、日本舞踊、民族舞踊、マイムなどの表現領域から作品を自由に選択し、1分以内に演じる。使用する音楽（カセットテープに録音のこと）を持参のこと。

② 創作

イ. スポーツ（下記①～③をすべて行う）

① バレーボール

② バスケットボール

③ テニス（硬式又は軟式）

※ 実技検査に必要な服装、靴、用具を持参のこと。

- 芸術・表現行動学科（音楽表現コース）志望者に次の検査を行う。

##### 1, 必須課題

ア. 聴 音 : 1～4声部

イ. 新曲視唱 : 伴奏付き

ウ. 歌 唱 : イタリア古典歌曲（原語）より1曲自由選択し、暗譜で演奏すること。

なお、歌唱は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜に氏名を明記して出願書類と一緒に送ること。（返却しない）

エ. ピアノ : J. S. バッハ作曲の鍵盤音楽（3分以内）より1曲を自由選択し、暗譜で演奏すること。

##### 2, 選択課題

次のア、イ、ウのいずれか一つを選択すること。

ア. 声楽演奏

下記のいずれかを選択し、暗譜で演奏すること。

① 日本歌曲

② アリア（原語・原調）または外国歌曲（原語）

なお、声楽演奏は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜に氏名を明記して出願書類と一緒に送ること。（返却しない）

イ. ピアノ演奏

下記のいずれかを選択し、暗譜で演奏すること。

① ベートーヴェンのピアノソナタから一つの楽章を自由選択（ただし、緩徐楽章を除く）

② ショパンのピアノ練習曲集（作品10, 作品25）から2曲を自由選択

ウ. 声または任意の楽器による演奏

音楽様式は問わない（邦楽器、洋楽器など）。

演奏に関する質疑応答を行う。楽譜使用可。演奏は受験者本人のみに限る。

#### (5) 口述試験

各学部とも口述試験を行う。

(6) 入学試験日時割

		2月25日(火)		2月26日(水)			
文 教 育 学 部	人文学科 言語文化学科 人間社会科学科	実技検査 10:00 ~		日本語	外国語	口述試験	実技検査
	芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース						
	音楽表現コース						
理 学 部	数 学 科	数 学 共 通 10:00 ~ 11:40	数学 13:10 ~ 15:10	10:00 }	13:10 }	15:20 ~	
	物 理 学 科		物理・数学 13:10 ~ 16:10	11:40	14:50		
	化 学 科		化学・選択(物理、生物) 13:10 ~ 16:10				
	生 物 学 科		生物・選択(物理、化学) 13:10 ~ 16:10				
	情 報 学 科		数学・選択(物理、化学、 生物、数学) 13:10 ~ 16:10				
生 活 科 学 部	生活環境学科	数 学 10:00 ~ 11:40					
	人間生活学科						

※ 受験上の注意等については、受験票送付の際に同封する。



## 9 合格発表

平成9年(1997年)3月7日(金)正午 学内本部棟前掲示板に発表する。

合格者には、発表当日、「日本国内の連絡先」あてに合格通知書を郵送する。

## 10 入学手続等

### (1) 入学手続日

学 部	手 続 日	手 続 時 間	手 続 場 所
全 学 部	3月13日(木)	10:00~12:00, 13:00~16:00	本学共通講義棟2号館
	3月14日(金)	〃	〃
	3月26日(水)	〃	〃
	3月27日(木)	〃	〃

(注) 上記「手続日」欄に示したいずれかの日時に、入学手続を行うこと。

所定の期日までに手続をしない者は、入学を辞退した者として取り扱う。

### (2) 手続事項

提出書類	お茶の水女子大学受験票
入 学 料	270,000円
授 業 料	前期分 234,600円〔年額 469,200円〕 (注1) 前期分の授業料を上記手続期間中に納入しないときは、4月1日から4月30日までの間に納入することになる。 (注2) 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当額を返還する。 (注3) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができる。

## 11 注意事項

- (1) 提出書類に不備不足等がある場合は受理しない。また、いったん受理した書類は返却しない。
- (2) 既納の検定料は、いかなる理由があっても返還しない。
- (3) 合否に関しての電話による問い合わせには応じない。

## 12 受験に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学 学務課留学生係  
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
☎ 03-5978-5143

出願カード記入上の注意

- 太枠内のみ記入すること。
- ☆欄には記入しないこと。
- 誤って記入した場合は、誤記部分を二重線で消し、訂正すること。

1 日本国内の連絡先

本学からの連絡、受験票の送付、合格通知等は、すべてこの住所あてに行う。確実に連絡できる場所を記入すること。

電話は、呼び出しでもよいから、番号と呼出先を書くこと。  
別添の「あて名票（合格通知用）」も記入すること。

2 出願資格

A欄 学校教育における12年の課程修了（見込）者は、その課程の最終校名及び修了（見込）年月日を記入すること。

B欄 A以外の資格により出願する者は、その資格試験等の名称、及び資格取得年月日を記入すること。

3 志望学科等

文教育学部志願者

- 志願者名票・写真票・受験票 の志望学科欄には、次に示す名称で記入すること。

学 科 名	人文科学科	言語文化学科	人間社会科学科	芸術・表現行動学科
-------	-------	--------	---------	-----------

- 芸術・表現行動学科を志望する者は、コース欄にも次に示す名称で記入すること。

コース名	舞踊教育学コース	音楽表現コース
------	----------	---------

理学部志願者

- 志願者名票・写真票・受験票 の志望学科欄には、次に示す名称で記入すること。

学 科 名	数学科	物理学科	化学科	生物学科	情報科学科
-------	-----	------	-----	------	-------

生活科学部志願者

- 志願者名票・写真票・受験票の志望学科・専攻欄には、志望学科名及び入学後に履修を希望する専攻分野について次に示す名称で記入すること。

学 科	生 活 環 境 学 科		
専 攻	生活工学	食物科学	人間科学

学 科	人 間 生 活 学 科		
専 攻	発達臨床学	生活社会科学	生活文化学

4 写 真

カラーでも白黒でもよい。

単身・正面向き・上半身、縦4cm・横3cm、提出前3か月以内に写したもの。

メガネ使用者は、メガネ着用のこと。（写真票と受験票は同じ写真を貼る。）

5 選択届出科目

- (1) 太枠内に各自の受験する科目に赤で○印をつける。届出後の変更は認めない。
- (2) 学力検査科目欄の外国語（英語、ドイツ語、フランス語）は、母国語を選択することはできない。

## ◎平成8年9月卒業式及び学位記授与について

平成8年9月卒業式及び学位記授与式が9月30日（月）大学会議室で举行された。

・卒業者数 (2名)

文教育学部 1名

家政学部 1名

・修了者数 (11名)

修士課程 人文科学研究科 6名

理 学 研 究 科 1名

家政学研究科 4名

博士課程 人間文化研究科 3名



## ◎学 位 授 与

(課程修了によるもの)

授与番号	博士の専攻分野の名称	氏 名	本 籍	博 士 論 文 名	授 年 月 与 日
甲第 62号	博士(人文科学)	李 一 淑	大韓民国	『蜻蛉日記』の物忌と方忌の研究	平成8年9月30日
甲第 63号	博士(人文科学)	游 珮 芸	台 湾	台湾における日本植民地時代の児童文化の研究	平成8年9月30日
甲第 64号	博士(理 学)	中 嶋 直 子	山 梨 県	外生エピブラシノライドによるキュウリの上胚軸の伸長成長の機構に関する研究	平成8年9月30日

(論文修了によるもの)

授与番号	博士の専攻分野の名称	氏 名	本 籍	博 士 論 文 名	授 年 月 与 日
乙第 61号	博士(人文科学)	岩 崎 千 鶴	東 京 都	日本古代文学における神話と女性	平成8年9月30日
乙第 62号	博士(人文科学)	宮 内 淳 子	東 京 都	岡本かの子 一無常の海へー	平成8年9月30日
乙第 63号	博士(人文科学)	郭 南 燕	中 国	志賀文学の源流	平成8年9月30日

# 人 事

発令年月日	氏 名	官 職 等	異 動 前 の 所 属 ・ 職 名
◇ 採 用			
8. 10. 1	高 荷 敏 之	文部事務官（文教育学部）	
◇ 併 任			
8. 10. 1	平野由紀子	文教育学部長・評議員 併任期間 平成10年9月30日	（文教育学部教授）
"	小林 彰 夫	生活科学部長・評議員 併任期間 平成10年9月30日	（生活科学部教授）
"	小林 彰 夫	家政学部長・評議員 併任期間 平成 9年3月31日	（家政学部教授）
"	山本秀行	評議員 併任期間 平成 9年9月30日	（文教育学部教授）
"	市古夏生	評議員 併任期間 平成 9年9月30日	（文教育学部教授）
"	小川昭二郎	評議員 併任期間 平成10年9月30日	（生活科学部教授）
"	小川昭二郎	評議員 併任期間 平成 9年3月31日	（家政学部教授）
"	島田 淳子	評議員 併任期間 平成10年9月30日	（生活科学部教授）
"	島田 淳子	評議員 併任期間 平成 9年3月31日	（家政学部教授）
"	本間 清一	評議員 併任期間 平成10年9月30日	（生活科学部教授）
"	本間 清一	評議員 併任期間 平成 9年3月31日	（家政学部教授）
◇ 併任解除			
8. 10. 1	平野由紀子	評議員併任解除	（文教育学部教授）
"	田中眞砂子	"	"
◇ 復 職			
8. 9. 28	渡部亜矢子	職務復帰	理学部助手
◇ 休 職			
8. 9. 16	高橋陽子	育児休業 期間平成9年3月31日	（附属幼稚園教諭）
8. 10. 1	佐々木信一	休職期間更新 期間平成9年3月31日	（会計課）
◇ 公 の 名 称			
8. 9. 16	小池三枝	附属学校部長事務代理（免）	（生活科学部教授）

発令年月日	氏名	官職等	異動前の所属・職名
◇ 臨時的任用			
8. 9. 16	中村美智子	附属幼稚園教諭	(理学部助手)
8. 9. 28	本間裕子	任期平成9年3月31日 平成8年9月27日限り 任期満了退職	

◎外国人研究員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 契約				
8. 10. 1	トウルン, タン・ダム	ジェンダー研究センター	8. 12. 31	

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
8. 9. 1	川村倫世子	事務補佐員 (学務課)	9. 3. 31	
"	村上陽美	" (文教育学部)	8. 9. 30	
"	山田美絵	教務補佐員 (生活科学部)	9. 3. 31	
"	小島優子	" (ジェンダー研究センター)	"	
8. 10. 1	前屋敷史美	事務補佐員 (文教育学部)	"	
"	梅沢直美	"	"	
"	西脇容子	ティーチング・アシスタント	9. 2. 28	
"	八木純子	" (理学部)	"	
"	川崎かおり	"	"	
"	村木和美	"	"	
"	君塚絵美	"	"	
"	青木真由美	"	"	
"	酒井麻子	"	"	
"	黒越祥子	"	"	
"	佐久間方子	"	"	
"	大泉由紀子	"	"	
"	猪平佳代子	"	"	
"	神部素子	"	"	
"	原香子	"	"	
"	高木佐恵子	"	"	
"	高野彩子	"	"	
"	八代夕紀子	"	"	
"	三宅理真子	教務補佐員 (生活科学部)	9. 3. 31	
"	相原地恭子	ティーチング・アシスタント	"	
"	中川紀美子	"	"	
"	甲島順子	"	"	
"	三本玲代	"	"	
"	山本浩千恵	"	"	
"	成田千草	"	"	
"	伊藤三宅典子	"	"	
"	津嘉山陽子	" (大学院人間文化研究科)	9. 2. 28	
"	西川賀恭子	"	"	
"	古藤あやの	"	"	
8. 10. 22	梅澤香代子	教務補佐員 (理学部)	9. 3. 31	
◇ 任用更新				
8. 10. 1	本田典子	事務補佐員 (文教育学部)	9. 3. 31	
"	根本由香子	教務補佐員 (生活科学部)	"	
"	霜田くみ子	"	"	
"	川口由美子	"	"	
"	本山方子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	9. 2. 28	
◇ 退職				
8. 9. 30	佐藤由美子	教務補佐員 (文教育学部)		
"	梅澤典子	" (生活科学部)		
8. 10. 31	山田泰教	" (理学部)		
"	塩崎尚美	" (生活科学部)		

◎非常勤講師

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
8. 9. 1	山崖俊子	講師 (生活科学部)	8. 9. 30	津田塾大学助教授
" "	嶋口子	" (附属中学校)	9. 3. 31	
8. 9. 4	上明博	" (附属小学校)	8. 9. 6	
" "	森佳子	" "	" "	
8. 10. 1	石川寛	" (文教育学部)	9. 3. 31	
" "	栗田尚	" "	" "	
" "	宮口侗	" "	" "	早稲田大学教授
" "	杉森哲	" "	" "	放送大学助教授
" "	松田千枝	" "	" "	作新学院大学助教授
" "	岡崎友典	" "	" "	放送大学助教授
" "	松平信久	" "	" "	立教大学教授
" "	古市憲一	" "	" "	
" "	石田喜代	" "	" "	文京女子大学助教授
" "	秋井美	" "	" "	立教大学助教授
" "	石井和	" "	" "	慶応義塾大学教授
" "	石井則	" "	" "	
" "	柳沼輝	" "	" "	武蔵野音楽大学講師
" "	渡辺邦	" "	" "	淑徳短期大学教授
" "	大山道	" "	" "	国際武道大学教授
" "	山道治	" "	" "	
" "	薦阿部	" "	" "	
" "	菅聡子	" "	" "	東洋女子短期大学講師
" "	塚千鶴	" "	" "	女子聖学院短期大学講師
" "	手宮雄	" (理学部)	" "	慶応義塾大学助教授
" "	香島理	" "	" "	東京理科大学教授
" "	川瀬晃	" "	" "	中央大学助教授
" "	佐藤倫	" "	" "	セイコー電子工業(株)顧問
" "	米本昌	" "	" "	(株)東芝研究開発センター研究主務
" "	八杉貞	" "	" "	三菱化学生命科学研究所研究室長
" "	長岡俊	" "	" "	東京都立大学教授
" "	土屋守	" "	" "	宇宙開発事業団主任開発部員
" "	清木正	" "	" "	東海大学助教授
" "	黒田洋	" "	" "	慶応義塾大学助教授
" "	下村道	" "	" "	東京都神経科学総合研究所参事研究員
" "	本間裕	" "	" "	大妻女子大学教授
" "	小見山二	" (生活科学部)	" "	
" "	相楽典	" "	" "	
" "	前田美	" "	" "	鹿島建設(株)技術研究所次長
" "	伊藤夏	" "	" "	日本医科大学講師
" "	山藤静	" "	" "	
" "	脇田佳	" "	" "	味の素(株)食品総合研究所主任研究員
" "	真近生	" "	" "	埼玉純真女子短期大学講師
" "	町藤静	" "	" "	大妻女子大学助教授
" "	山本豊	" "	" "	東京都老人総合研究所主任研究員
" "	松井部	" "	" "	
" "	阿谷川	" "	" "	慶応義塾大学教授
" "	中島利	" "	" "	聖心女子大学助教授
" "	柴崎正	" "	" "	放送大学教授
" "	上垣内	" "	" "	国学院大学教授
" "	宮坂啓	" "	" "	昭和女子大学教授
" "	岡本洋	" "	" "	聖ヶ丘教育福祉専門学校講師
" "		" "	" "	東京家政大学助教授
" "		" "	" "	十文字学園女子短期大学講師
" "		" "	" "	新潟職業訓練短期大学校長
" "		" "	" "	東京ガス(株)部長



発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
8. 10. 1	加藤 春恵子	講師 (大学院人間文化研究科)	9. 3. 31	東京女子大学教授
"	尾行 知薫	講師 (研究機関研究員) (生活環境研究センター)	"	"
"	荒尾 薫	" " (ジェンダー研究センター)	"	"
8. 10. 2	馬場 由子	講師 (附属小学校)	8. 11. 25	"
"	本間 裕子	" (附属中学校)	8. 11. 6	"
8. 10. 16	大野 裕美	" "	8. 12. 18	"
8. 10. 22	足立 はるよ	講師 (研究機関研究員) (生活環境研究センター)	9. 3. 31	"

◇ 併任

8. 9. 15	福田 路子	講師 (附属高等学校)	9. 3. 31	大学院人文科学研究科助手
8. 10. 1	藤井 恵子	" (文教育学部)	"	東京大学助教授
"	吉田 ゆり	" "	"	東京外国語大学助教授
"	藤田 進一	" "	"	東京外国語大学教授
"	寺島 孝裕	" "	"	東京大学助教授
"	鈴木 本一	" "	"	筑波大学講師
"	山本 典哲	" "	"	埼玉大学教授
"	今下 西村	" "	"	筑波大学教授
"	浅窪 沼田 真紀	" "	"	筑波大学助教授
"	仲真 隆二	" "	"	筑波大学助教授
"	奥村 司宏	" "	"	千葉大学助教授
"	森島 嘉一	" "	"	東京学芸大学助教授
"	水野 木章子	" "	"	東京大学助教授
"	西野 真由美	" "	"	千葉大学講師
"	小長谷 有紀	" "	"	国立教育研究所研究員
"	流田 直夫	" "	"	国立民族学博物館助教授
"	小宮 幸夫	" (理学部)	"	附属小学校教諭
"	和田 幸人	" "	"	附属中学校教諭
"	高橋 重一	" "	"	東京農工大学教授
"	越谷 啓彦	" "	"	一橋大学教授
"	小林 利隆	" "	"	一橋大学教授
"	川北 征公	" "	"	千葉大学助教授
"	原橋 隆雄	" "	"	東京大学助教授
"	諸古 隆夫	" "	"	東京大学助教授
"	守野 栄常	" "	"	東京大学助教授
"	西黒 来正	" "	"	千葉大学助教授
"	寶原 野清	" "	"	東京工業大学教授
"	西鷹 三澄	" "	"	筑波大学教授
"	今柳 洋淳	" "	"	東京大学助教授
"	林 佳茂	" "	"	山梨大学教授
"	楠 見孝	" "	"	国立遺伝学研究所助教授
"	大沼 保昭	" "	"	東京工業大学助教授
"	飯島 景勝	" "	"	東京大学助教授
"	趙宇 弘憲	" "	"	横浜国立大学助教授
"	志小 道透	" "	"	千葉大学助教授
"	江口 真	" "	"	大阪大学助教授
"		" "	"	千葉大学助教授
"		" "	"	千葉大学助教授
"		" "	"	東京大学助教授
"		" "	"	統計数理研究所教授

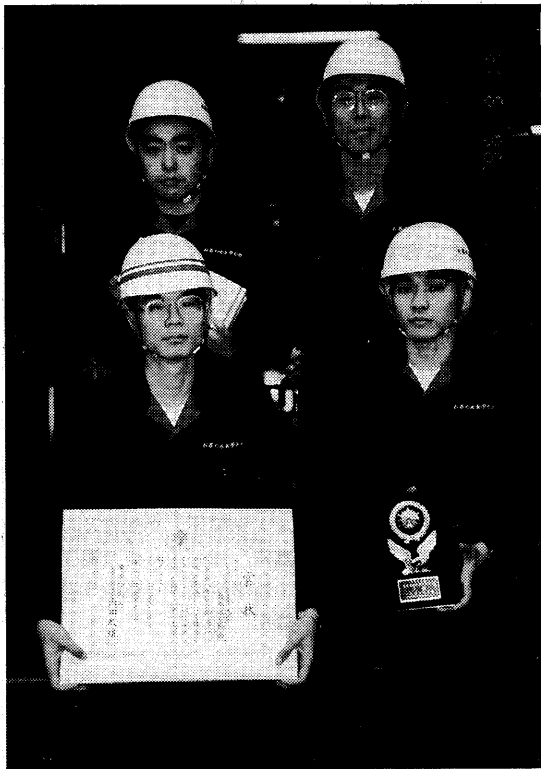
発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
8. 10. 1	藤井孝藏	講師 (理学部)	9. 3. 31	宇宙科学研究所助教授
"	田村善昭	" "	"	東京大学助教授
"	蜂屋弘之	" "	"	千葉大学助教授
"	佐藤道幸	" "	"	附属中学校教諭
"	山中英明	" (生活科学部)	"	東京水産大学教授
"	佐藤俊	" "	"	筑波大学教授
"	藤本大三郎	" "	"	東京農工大学教授
"	山本啓一	" "	"	千葉大学教授
"	大川匡子	" "	"	国立精神・神経センター精神保健研究所 神経生理部長
"	仲真紀子	" "	"	千葉大学助教授
"	佐藤郁哉	" "	"	一橋大学助教授
"	在塚礼子	" "	"	埼玉大学助教授
"	阿内藤正誠	" "	"	人口問題研究所長
"	内野正幸	" "	"	筑波大学助教授
"	市川雅教	" "	"	東京外国語大学助教授
"	井上勝也	" "	"	筑波大学教授
"	田中平三	" (大学院人間文化研究科)	"	東京医科歯科大学教授

## ◎平成8年秋の叙勲について

平成8年11月3日の秋の叙勲で本学元事務局長廣重利之輔氏が勲四等旭日小綬章を受章されました。

## ◎第20回自衛消防隊訓練審査会について

9月13日（金）に文京区の小石川消防署で行われた第20回自衛消防隊訓練審査会において、『お茶の水女子大学自衛消防隊』（隊員 会計課 石井 文弘、庶務課 伊藤 武、学務課 脇 紀夫、会計課 齋藤 太一）が第4位の荣誉に輝き、小石川消防署長から賞状と入賞楯が授与されました。



# 諸 報

## ◎研 修

名 称	実 施 日 時	対 象 者	修 了 者	主 催
平成8年度日本原子力研究所ラ ジオアイソトープ研修部門第226 回専門課程（R Iの生物学へ の利用）	平成8年8月26日 ～9月6日	大学理工系（生物科学関連） 卒以上	理学部・R I実験 室 古田 悦子	日本原子力研究 所 （文部省学術国 際局）
平成8年度関東甲信越地区国立 学校事務電算化担当職員A研修	平成8年9月9日 ～9月18日	関東B・C地区国立学校で 事務のシステムの導入・維持 管理を担当する職員	会計課・用度係 関口 健治 会計課・司計係 中村 一吉	文部省及び 千葉大学
第47回文部省会計事務特別研修	平成8年9月17日 ～10月4日	会計事務に従事し、かつ1 年以上会計事務の経験を有す る者又はそれに相当する者で 原則として25歳以上30歳以下 の者	会計課・総務係 千葉 久雄	文部省
第31回関東甲信越地区国立学校 等会計事務職員研修	平成8年9月30日 ～10月4日	会計事務に従事し、かつ1 年以上の会計事務経験を有す る者	会計課・用度係 齊藤 太一 会計課・用度係 竹下 良久	文部省及び 上越教育大学
平成8年度関東・甲信越地区国 立学校等係長研修	平成8年10月1日 ～10月4日	① 係長又は係長相当の職に ある者 ② 年齢50歳以下の者 ③ 勤務成績が優秀な者	庶務課・大学院係 長 高田 洋一 学務課・留学生係 長 鎌田 啓子	文部省及び 東京農工大学 東京学芸大学
平成8年度南関東・甲信越地区 国立大学等国際交流担当職員研 修	平成8年10月7日 ～10月9日	国立大学等において国際交 流事務を担当する主任以下の 職員で、各機関からの推薦に より東京大学が受講を認めた 者	庶務課・庶務係 （研究協力室） 伊藤 武	文部省及び 東京大学
平成8年度関東甲信越地区国立 学校事務電算化担当職員B研修	平成8年10月21日 ～10月25日	国立学校事務電算化担当職 員A研修を受講した者又は、 プログラミングの実務経験が 1年以上で、事務の電算処理 を担当する職員	会計課・用度係 齊藤 太一	文部省及び 東京工業大学
第16回「西洋社会科学古典資料 講習会」	平成8年10月22日 ～10月25日	国公立大学図書館及び大 学その他の研究機関に所属す る者で、西洋社会科学古典資 料の整理または調査研究に従 事している者	附属図書館・情報 管理係 高橋ひとみ	一橋大学社会科 学古典資料セン ター

◎海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
文教育学部・教授	内田伸子	アメリカ合衆国	平成8年度文部省在外研究	8.9.1～ 9.6.30 (帰国予定)	外国出張
人文科学研究科・教授	平田悦朗	オーストラリア	モナシュ大学との大学間交流協定に関わる打合せ及び講演	8.9.2～ 8.9.9	海外研修
文教育学部・助教授	内田忠賢	インド	南アジア歴史都市に関する資料収集	8.9.4～ 8.9.11	海外研修
理学部・助教授	林正男	アメリカ合衆国	バイオサイエンスの動向・問題・展望の研究	8.9.5～ 8.10.25	外国出張
生活科学部・教授	田中辰明	タイ王国	国際冷熱技術研修センター(バンコク)において室内空気環境に関し講演及び大学との交流	8.9.5～ 8.9.10	海外研修
文教育学部・教授	森下はるみ	大韓民国	学会(Asian Society for Adapted Physical Activity and Exercise)報告	8.9.12～ 8.9.17	外国出張
理学部・助教授	榎本陽子	フランス共和国	有限群の表現論の研究	8.9.13～ 8.10.19	海外研修
生活科学部・教授	袖井孝子	ドイツ連邦共和国	介護保険の実施状況に関する調査研究	8.9.15～ 8.9.23	海外研修
理学部・助手	小島京子	オランダ王国 スイス連邦	上皮細胞の極性形成の分子機構に関する研究をユトレヒト大学(オランダ)で行い、第14回国際複合糖質会議(チューリッヒ・スイス)に参加	8.9.16～ 9.9.15 (帰国予定)	外国出張
理学部・教授	太田隆夫	ドイツ連邦共和国	「複雑な散逸系における波動と界面の非線形動力学」に関する日独科学協力事業(日本学術振興会)	8.9.17～ 8.9.28	外国出張
生活科学部・助教授	田辺新一	カナダ アメリカ合衆国	住宅と北米ライフスタイル調査	8.9.18～ 8.9.30	海外研修

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
理学部・教授	芦原 坦	ドイツ連邦共和国 スイス連邦	国際会議（ヨーロッパ植物化学会）出席及び研究打合せ	8. 9. 18～ 8. 10. 2	海外研修
文教育学部・助教授	古田 啓	中華人民共和国	第7回日中日本学シンポジウムにおける講演及び講習会	8. 9. 29～ 8. 10. 6	外国出張
文教育学部・助教授	坂本 佳鶴恵	連合王国 アメリカ合衆国 フランス共和国 スイス連邦 スペイン イタリア共和国 スウェーデン王国	カルチュラル・スタディズの視点からのメディアと家族をめぐる比較調査、資料収集及び研究交流	8. 10. 1～ 10. 9. 30 (帰国予定)	海外研修
文教育学部・教授	徳丸 吉彦	ヴェトナム社会主義共和国	ヴェトナム雅楽の推進	8. 10. 3～ 8. 10. 10	海外研修
文教育学部・教授	石黒 節子	連合王国	舞踊公演と資料収集	8. 10. 6～ 8. 10. 16	海外研修
文教育学部・助教授	竹村 和子	アメリカ合衆国	ハーヴァード大学英文学会参加及び資料収集	8. 10. 6～ 8. 10. 14	海外研修
ジェンダー研究センター・教授	原 ひろ子	タイ王国	平成8年度文部省科学研究費補助金（国際学術研究）にかかる現地調査	8. 10. 9～ 8. 10. 23	外国出張
理学部・助教授	藤代 一成	アメリカ合衆国	IEEE Visualization '96 国際会議参加	8. 10. 27～ 8. 11. 3 (帰国予定)	海外研修
文教育学部・教授	徳丸 吉彦	カナダ	民族音楽学会での発表と司会	8. 10. 29～ 8. 11. 4 (帰国予定)	海外研修
人間文化研究科・助手	小塩 さとみ	カナダ	民族音楽学会の参加及び発表	8. 10. 29～ 8. 11. 5 (帰国予定)	海外研修
文教育学部・教授	市古 夏生	アメリカ合衆国	学会参加と資料調査	8. 10. 30～ 8. 11. 10 (帰国予定)	海外研修
文教育学部・助教授	栗原 尚子	スペイン	「バルセロナ市の都市計画」 「スペインにおける近代地理学の受容」研究	7. 12. 10～ 8. 10. 28 (期間変更)	海外研修

### ◎レクリエーション行事

行 事 名	実 施 日 時	参 加 者 数	内 容	実 施 場 所
歌 舞 伎 鑑 賞	平成8年 10月5、6、13、 19、26日	50人	題名 通し狂言 「四天王楓江戸粧」 (してんのうもみじのえどぐま)	国 立 劇 場

### ◎健康診断

事 項	実 施 日 時	対 象 者	受 診 者 数	実 施 場 所
職員特別定期健康診断 (第1回)	平成8年9月30日	自動車運転手	2人	保健管理センター
職員定期健康診断 (第1回)	平成8年10月14日、 15日	全職員。ただし、人間ドック の受診者及び遠隔地勤務者を除 く。	193人	保健管理センター

# 日 誌

## ◎諸会議

- |  |   |
|--|---|
| <p>9月3日(火) 臨時主任会議(理)<br/>文教育学部教務関係事項検討委員会<br/>入試事務打合せ<br/>於・入試センター<br/>国立学校事務電算化講習会～5日<br/>於・仙台KKRホテル<br/>文部省共済組合初任事務担当者会議～4日<br/>於・千秋会館</p> <p>6日(金) 事務連絡会議<br/>カリキュラム委員会</p> <p>9日(月) 国立学校等経理部課長会議<br/>於・医科歯科大<br/>入学者選抜方法研究委員会</p> <p>10日(火) ジェンダー研究センター運営委員会<br/>RI運営委員会<br/>部局長会議<br/>主任会議(3学部)</p> <p>11日(水) 教授会</p> <p>13日(金) 教育実習説明会<br/>於・教育研究所<br/>東京地区国公立大学厚生補導部課長会議<br/>於・都立科技大<br/>研究科会議</p> <p>17日(火) 大学院問題検討特別委員会</p> <p>18日(水) 生活環境研究センター運営委員会</p> | <p>学生委員会</p> <p>19日(木) 国立学校等広報・文書研究協議会～20日<br/>於・オリセン</p> <p>25日(水) 附属学校教育研究委員会</p> <p>26日(木) 防災委員会<br/>部局長会議</p> <p>27日(金) 評議会<br/>入学試験委員会</p> <p>30日(月) 関東C地区国立学校事務電算化専門委員会<br/>於・東京工業大</p> <p>10月2日(水) 研究科会議</p> <p>4日(金) 事務連絡会議</p> <p>7日(月) 全国国立大学学生部長協議会～9日<br/>於・徳島大学<br/>カリキュラム委員会</p> <p>9日(水) 理学部入学者選抜方法検討委員会</p> <p>14日(月) 関東甲信越地区国立大学等庶務部課長会議～15日<br/>於・新潟大学</p> <p>15日(火) 生活環境研究センター運営委員会<br/>部局長会議<br/>主任会議(3学部)<br/>国立大学図書館協議会～17日<br/>於・京都市勧業館</p> <p>16日(水) 理学部PR委員会<br/>教授会</p> |
|--|---|



	文教育学部教務関係事項検討委員会 国立大学図書館協議会理事会 ～17日 於・京都市勧業館	於・KKR HOTEL TOKYO 事務連絡会議
17日（木）	教官総覧作成委員会 教育系大学附属学校部長・事務長協議会～18日	26日（土） 女子大学連盟総会 於・津田塾大
18日（金）	留学生専門委員会 関東甲信越地区国立大学長会議 於・如水会館	29日（火） 国立大学図書館協議会東京地区人事担当事務（課）長会議 於・東京大学
21日（月）	国立16大学学長懇話会 於・京王プラザ	30日（水） 附属図書館運営委員会 文教育学部大学院前期課程連絡委員会
22日（火）	第16回西洋社会科学古典資料講習会～25日 於・一橋大学 文京区内大学と文京区との連絡会 於・文京区役所 部局長会議	31日（木） 国立大学等人事担当課長事務連絡会議 於・文部省
23日（水）	評議会 施設計画委員会 学長候補者選挙管理委員会 研究科会議 附属学校教育研究委員会	
24日（木）	関東甲信越地区国立大学事務局局長会議～25日 於・総研大 22大学理学部長会議 於・KKR HOTEL TOKYO 文部省共済組合地区別事務担当者打合せ会議～25日 於・岩手大学	
25日（金）	全国理学部長会議	

## ◎行事等

- |          |  |  |
|----------|--|--|
| 9月4日(水)  | 大学院理学研究科入学試験～5日<br>大学院家政学研究科入学試験                     | 於・オリセン   |
| 7日(土)    | 公開講座   | 2日(水) 教育実習オリエンテーション                                |
| 9日(月)    | 関プロ電算A研修～19日<br>於・筑波大                                | 3日(木) 関東甲信越地区国立大学等施設部課長会議<br>於・群馬大学                |
| 11日(水)   | 日本語・日本文化研修留学生修了式                                     | 4日(金) 大学院人間文化研究科合格発表                               |
| 12日(木)   | 大学院理学・家政学研究科合格発表                                     | 7日(月) 人文科学研究科日本語文化専攻入学試験～9日<br>国家公務員等共済組合支部年次監査～9日 |
| 13日(金)   | 自衛消防隊訓練審査会<br>於・小石川消防署                               | 南関東・甲信越地区国際交流担当職員研修～9日<br>於・東京大学                   |
| 14日(土)   | 公開講座   | 12日(土) 公開講座  |
| 17日(火)   | 文部省会計事務特別研修(～10月4日)<br>於・オリセン                        | 14日(月) 職員一般定期健康診断～15日                              |
| 24日(火)   | 大学院人間文化研究科9月入試～26日<br>人文科学研究科(日本語文化・社会人学生)願書受付～30日   | 16日(水) 留学生オリエンテーション                                |
| 25日(水)   | 災害補償実務担当者研修会<br>於・合同庁舎3<br>不動産鑑定に関する講習会<br>於・国立教育会館  | 17日(木) 人文科学研究科日本語文化専攻合格発表                          |
| 26日(木)   | メンタルヘルス研修会～27日<br>於・合同庁舎3                            | 19日(土) 公開講座  |
| 30日(月)   | 関東甲信越地区国立大学等会計事務職員研修会～10月4日<br>於・上越教育大<br>卒業式・学位記授与式 | 21日(月) 関プロ電算B研修～25日<br>於・オリセン                      |
| 10月1日(火) | 関東甲信越地区国立学校等係長研修～4日                                  | 22日(火) 総合防災訓練                                      |
|          |  | 23日(水) 理学部帰国子女特別選抜願書受付～11/7<br>第1回就職ガイダンス          |
|          |  | 26日(土) 公開講座  |
|          |  | 29日(火) 国立学校等課長補佐級研修～11/1<br>於・オリセン                 |
|          |  | 30日(水) 放射線使用者特別定期健康診断<br>第2回就職ガイダンス                |